

大阪薬科大学報

Osaka University of Pharmaceutical Sciences



64

2012年(平成24年)1月10日発行

CONTENTS

理事長就任にあたって	理事長 井上 通敏…… 3
矢内原千鶴子前理事長追悼の辞	学 長 千熊 正彦…… 4
故矢内原千鶴子前理事長「お別れの会」	…… 5
大学認証評価を受けて	学 長 千熊 正彦…… 6
薬学科(6年制)完成年度を迎えて	教務部長 辻坊 裕…… 7
在学生へのメッセージ	
こつこつと知識・技能の積み上げを	教務部長 辻坊 裕…… 8
図書館を大いに利用しよう!	図書館長 三野 芳紀…… 8
素敵な人生を歩むために	キャリアサポート部長 藤田 芳一
	キャリアサポート課長 錦野 晴俊…… 9
ルール、マナー、エシックス	学生部長 楠瀬 健昭……10
大阪薬科大学と共に過ごした47年間	薬品物理化学研究室 教授 石田 寿昌……11
第7回特待奨学生表彰	学生部長 楠瀬 健昭……12
大薬祭2011 宴のあとに	学生部長 楠瀬 健昭……13
第46回大薬祭「あにまる」を終えて	実行委員長 笹 結一……14
研究室の紹介 生化学研究室/薬物治療学研究室/臨床化学研究室	……16
FD委員会の公開授業と授業研究会(ピア・レビュー)について	FD委員長 春沢 信哉……19
就任のご挨拶	薬物治療学Ⅱ研究室 教授 島本 史夫……20
	薬物治療学Ⅲ研究室 教授 林 哲也……20
	生体防御学研究室 助手 小池 敦資……21
	機能分子創製化学研究室 助手 中川 治……21
	薬品作用解析学研究室 助手 清水 佐紀……21
早期体験学習を終えて	早期体験学習委員長 田中 麗子……22
教育研究施設の紹介「動物関連研究施設」	動物関連研究施設管理責任者 安田 正秀……24
平成23年度市民講座を終えて	市民講座委員長 天野富美夫……25
ドイツのシュツットガルト市へー国際交流基金助成事業報告書	
大学院1年次生 臨床薬理学研究室 般若 夏樹・古川 裕一……26	
ストレスについてー学生相談室だよりー	学生相談室相談員 小田 佳子……28
事務局だより	
総務課	……29
教務課	……31
学生課(健康管理支援室)	……31
経理課	……35
キャリアサポート課	……36
入試課	……37
図書課	……38

裏表紙 薬用植物の紹介「ヤブツバキ」

薬用植物園長 田中 麗子





理事長就任にあたって

理事長 井上 通敏

矢内原千鶴子前理事長が平成23年9月7日に急逝され、10月11日の理事会で新理事長に選任されました。

矢内原先生は薬学教育と大阪薬科大学の発展のために最後の瞬間まで尽くされました。ご立派な一生だったと畏敬します。薬科大学のキャンパスは小高い丘にあります。その「坂の上の雲」で矢内原先生がにこやかに手を振っておられる姿が目には浮かびます。志の高い方でした。少しでも近づきたいものです。

さて、理事長に就任してキャンパスにやってきて最初に感じたことは、キャンパスが美しいことと学生たちが大変明るいことでした。大学祭も拝見しましたが、とても活発で、こんなにも沢山のクラブが活動していることも知りました。

来春には、薬学教育が6年制になって初めての卒業生が誕生します。大阪薬大の卒業生が活躍し、高い評価を受けることを心から願っています。

6年制の目的は医療で活躍できる薬剤師を育成することでした。私は医学部出身で、国立大阪病院（現在の国立病院機構大阪医療センター）の院長や大阪府立の5つの病院を運営する独立行政法人府立病院機構の理事長などを経験しましたが、病院薬剤師は医師や看護師とよい意味で競い合ってもっともっと活躍してほしいと思いました。6年制になって医学・医療のことをより詳しく学び、力をつけて病院へやってきてくれることを大いに期待しています。薬が医療に占める役割の大きさは言うまでもありません。患者さんへの服薬指導、副作用の発見、がん化学療法、耐性菌による院内感染予防のための抗菌物質投与のコントロール、クリニカルパス法への参画、治験のデザインや統計処理、緩和ケアやターミナルケアへの積極的な参画……など薬剤師にもっともっと活躍してほしい仕事はたくさんあります。

そういう将来の仕事を考えると教育面で薬学と医学・医療はもっと接近したほうがよいのではないかという考えが強まってきました。

大阪薬大は平成8年に現在の高槻キャンパスへ移ってきたのですが、その当時から同じ高槻にあって医療界で確固たる地位を築いてこられた大阪医大との間で教育や研究での連携協力を試みて参りました。この両大学の実績や信頼関係を踏まえて、両大学の理事会では、もう一步踏み込んで、法人合併を行えば（1法人2大学）両大学の教育や研究のさらなる充実が期待できるのではないかと考え、このほど（10月25日および10月27日）両大学の理事会および評議員会で賛同を得ました。両大学の教育や研究のさらなる充実に向けて努力が続けられることとなります。

私が病院長のときは「患者本位でよい医療に努めることが病院の評価につながり、結果として経営もよくなる」と繰り返し申し上げましたが、これを大学に当てはめると「大学は学生本位でよい教育をすること」となります。当たり前のことです。

それではよい教育とは何かということですが、基本は人間教育で、一言でいうと「他人を尊重すること（respect others）」だと思います。それを支えるのが一般教養です。その上に実学としての薬学教育があります。実学ですから、社会のニーズに敏感で、それに合わせて教育内容も柔軟に変えねばならないこともあります。医療からのニーズを受けて、6年制になったこともそうですし、本学が大阪医大との法人合併に踏み切ったのも社会的ニーズの変化に対応したものです。

6年制1期生のみなさんには厳しい試練が待ち受けていますが、先陣を切って後輩たちのために道を切り拓いてほしいものです。理事会も評議員会も教授会も同窓会も1期生への応援を懸命にしなくてはなりません。



矢内原千鶴子 前理事長追悼の辞

学長 千熊 正彦

矢内原千鶴子前理事長は平成23年9月7日にご自宅でお亡くなりになりました。

前日まで理事長室で執務され、本学の抱える問題に精力的に取り組んでおられた先生が突然逝去されるとは思いもよらないことであり、驚きと悲しみに耐えられません。

矢内原先生は、昭和62年大阪大学医学部教授並びに大阪大学医学部附属病院薬剤部長に就任され、その後平成8年兵庫医科大学附属病院薬剤部長を経て、平成11年12月に大阪薬科大学学長に就任されました。また、学長の任期満了後の平成17年12月より学校法人大阪薬科大学理事長を務めておられました。

矢内原先生が学長に就任されたころは、我が国の薬学教育が新しい時代を迎えようとしているときであり、百家争鳴の観がありました。矢内原先生は、多様な人材を養成してきた日本の薬学の伝統を継承しつつ、基礎科学を基盤として、かつ臨床に関わる高い能力を身につけた新しい薬剤師を育成すべきであると常々述べておられました。

医薬分業が急速に進展し、同時に医療が高度化するなか、薬剤師には、医薬品の適正使用を推進するために中心的役割が求められ、患者等への服薬指導や安全な薬物療法の提供といった臨床薬学教育の充実が喫緊の課題となっておりました。当時は、大学という教育の場と医療現場の両方を経験した教員ましてや学長は数少なく、必然的に日本の薬学教育界のオピニオンリーダーの役割を担われました。

平成14年には、文部科学省に「薬学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」が設置され、当時学長の矢内原先生も委員として参加されました。この会議では、現在ある新薬学教育課程の骨子が議論され、平成16年の学校教育法と薬剤師法の改正・公布へとつながり、薬学6年制の導入が決定されたのであります。

学内にあっては、4年制薬科学科と6年制薬学科とを併立するべく学内の意思統一を図られ、新しい理念に基づく6年制学科と4年制学科の2学科の設置を申請され、我が国の薬業界に多様な人材を輩出してきた本学百有余年の歴史を継承し、発展させるための基盤を築かれました。

大阪大学医学部附属病院薬剤部長のご経験から、臨床に通じた薬剤師の育成が今後は求められると判断され、医学部との実質的な提携の必要性を感じておられました。理事長に就任されるや大阪医科大学との強い連携の可能性を探られ、この1年余りはより具体的な方策について、理事会、評議員会での慎重な審議を重ねてこられ、その方向性を決断する直前にお亡くなりになりました。

先生は、その類まれなる先見性をもって薬学の将来を見据えて、日本の薬学の伝統である基礎研究の発展と新しい時代に必要な実践に強い薬剤師の養成に心血を注がれました。残された私たちは矢内原先生の志を受け継ぎ、その実現に向けて全力をあげて取り組むことをお誓いして、追悼の辞と致します。

矢内原先生、どうか安らかにお眠りください。

故 矢内原千鶴子先生のご略歴

昭和7年8月23日 出生

昭和30年3月 大阪大学医学部薬学科卒業

昭和30年4月 塩野義製薬(株)研究所研究員

昭和30年12月 米国ペンシルバニア州ピッツバーグ
大学医学部研究助手

昭和38年4月 静岡薬科大学助手

昭和41年3月 米国ペンシルバニア州ピッツバーグ
大学蛋白質研究所研究員

昭和43年7月 静岡薬科大学講師

昭和52年4月 静岡薬科大学助教授

昭和62年5月 大阪大学教授

同 医学部附属病院薬剤部長

平成8年4月 大阪大学名誉教授

兵庫医科大学病院薬剤部長

平成11年12月 大阪薬科大学学長

平成17年12月 学校法人大阪薬科大学理事長

平成23年9月7日 永眠

故矢内原千鶴子前理事長「お別れの会」を執り行いました

平成23年9月7日に急逝した矢内原千鶴子前理事長の「お別れの会」を11月7日(月)にリーガロイヤルホテルにて執り行いました。開式にあたり、参会者全員が黙祷を捧げた後、追悼ビデオ「人生の軌跡」を映写し、故人を偲びました。続いて社団法人日本私立薬科大学協会・高柳元明会長、本学・千熊正彦学長よりお別れの言葉が述べられ、その後、500余名の参会者が白いトルコキキョウに包まれた遺影を前に献花を捧げ、最後の別れを惜しまました。直会では、故人の在りし日の写真がパネル展示され、各々が故人との思い出を語り、冥福を祈りました。



お別れの言葉



献花



パネル展示



直会

大学認証評価を受けて —実地調査 (2011.10.18-19)

学長 千熊 正彦

大学設置に係る事前規制が緩和され、大学は自らの判断で社会の変化に対応して多様で特色のある教育研究活動を展開することがより容易になった。薬系大学(学部)の新設が相次いだのもこの流れに沿っている。新設された大学(学部)を含めて設置後の教育研究活動等の状況に関して、当該大学以外の第三者が継続的に事後評価を行うことによって、大学としてふさわしい質の維持向上を図ることを目的として現在の第三者評価が行われている。

大学評価の位置づけは次のような経過をたどってきた。平成3年7月の大学設置基準の改正により、それぞれの大学が大学の目的及び社会的使命を達成するために、自己点検・評価を行うことに努めなければならないとして、自己点検・評価が努力義務と規定された。さらに平成14年の学校教育法の改正により、全大学が、国から認証された第三者評価機関(認証評価機関)による機関別の評価を受けることが義務化され、第三者評価が平成16年4月より、大学の質の保証に係る新しいシステムとして導入された。大学は7年ごとに認証評価機関による第三者評価を受けて社会に公表することが義務付けられた。

本学は、平成17年3月に財団法人大学基準協会より大学基準に適合するものとして認証を受けた。その後7年を経て、本学としては2度目になる第三者評価を大学基準協会に申請した。今回の報告書の提出締め切りは、平成23年4月1日であったが、それまでに準備すべき資料は、「点検・評価報告書」、「大学基礎データ」およびその他の資料として大学や大学院の概要を説明するパンフレット、学生や大学院生の募集要項、教員の研究業績一覧、学則および各種規程などが指定された。本学は自己評価委員会を中心にして、「点検・評価報告書」の作成を行った。今回は、「理念・目的」、「教育研究組織」、「教員・教員組織」、「教育内容・方法・成果」、「学生の受け入れ」、「学生支援」、「教育研究等環境」、「社会連携・社会貢献」、「管理運営・財務」、「内部質保証」など10基準について報告書を作成した。

基準協会からは、大学評価分科会報告書(案)が提示され、これには、本学の作成した報告書に対する概評、長所として特記すべき事項、努力課題などが記載され

ている。この大学評価分科会報告書(案)に対する本学の回答および見解を基準協会に提出した。

基準協会より派遣された総勢7名による実地調査は10月18日、19日の2日間行われた。初日午前には、施設・設備の見学、午後には学生・大学院生へのインタビュー、授業参観、本学関係者へのインタビュー、附属薬局の見学などが行われた。また、2日目午前には本学関係者へのインタビュー、午後には授業参観、本学関係者との意見交換などが行われ、大学評価分科会報告書(案)に対する本学の回答および見解に基づく質疑応答もあった。

評価者の中には、薬系大学の教員も含まれており、細部にわたる質問も含まれていたが、実地調査全般を通じて、大学の現在の活動やこれからの大学のあり方に対する大学執行部の基本的考えに関する意見交換が行われ、有意義であった。また、前回の第三者評価においては、「薬学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.26、過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.23と、ともに高いので、適正化に努力されたい」という唯一の勧告を受けた。これに関しては毎年入学者数が入学定員の1.1倍未満になるように努力してきたことがあり、学部合計で1.10となり改善された。

薬系大学においては、平成18年に導入された薬学6年制新教育課程の5年次生の病院・薬局実務実習を実施する前年の平成21年度に、薬学教育評価機構の作成した評価項目について6年制教育の分野別自己評価・点検を行った。その結果は、「自己評価21」として、平成22年3月にホームページに掲載して社会に公表した。本学にとっては、続いて今回の大学基準協会の第三者評価に取り組んだので、教職員はややオーバーワークになったことは否めない。

今後平成24年度には、文部科学省は薬学科に基礎を置く大学院博士課程の自己評価を実施するとしている。また、平成26年度以降には、薬学教育評価機構による分野別第三者評価の実施が決まっている。

本学としては、これからも日頃から点検・評価を怠らず、薬学の教育・研究体制の更なる充実に向けて一層努力しなければならないと考える。

薬学科(6年制)完成年度を迎えて

教務部長 辻坊 裕

平成18年度4月1日より新しい薬学教育制度が発足したのを契機に、本学では充実した医療薬学領域の知識を持ち、医療が求める実践的な能力及び医療人としての自負と倫理を備えた薬剤師の養成を目的とした教育を行う薬学部薬学科(6年制課程)と創薬研究者・技術者、環境衛生分野や行政などの分野で活躍する人材の養成を目的とした薬学部薬科学科(4年制課程)を併設しました。

時間が経過するのは早いもので、本年度は薬学科の完成年度にあたります。この間、新しい薬学教育制度に対応するために、教職員一同が力をあわせて今日まで懸命に努力してまいりました結果、評価に耐えうる教育・研究環境を構築することができました。薬学科完成年度を迎え、長期実務実習、卒業研究及び薬剤師国家試験について私の考えを述べたいと思います。

本学の授業の多くは、日本薬学会による薬学教育モデル・コアカリキュラムに準じて実施されています。6年制カリキュラムにおける特徴として挙げられる授業科目は、やはり病院、保険薬局における実務実習の導入です。平成17年度以前の入学生(旧4年制課程)においても1ヵ月程度の実習が実施されていましたが、6年制カリキュラムでは、病院、保険薬局でそれぞれ11週間の長期実務実習を行います。6年制課程では、単に期間が延長されたのではなく、実習の内容自体が「見学型」から「参加型」に変更されました。「参加型」とは、現場で薬剤師と同等の業務の一部を行うことを意味します。それに伴い、長期実務実習に参画するためには、実務実習を行う前段階で、学内に必要かつ十分な基礎的知識や技能などが培われていることを基本として、臨床導入実習をはじめとする各種事前学習を修得し、かつCBT(Computer Based Testing)及びOSCE(Objective Structured Clinical Examination)から成る薬学共用試験に合格しなければなりません。これは薬学生の実務実習の違法性阻却を前提としたものです。したがって、本学の学生であるならば、医療チームの一員としての高尚な精神と態度、薬剤師職能に必要な知識・技能を修得しようとする毎日の研鑽と努力が求められます。学生諸君の一層の努力を期待します。

最近になって「基礎と臨床の有機的連携による研究マインドの涵養」が医学部モデル・コアカリキュラムの改定で謳われています。医学部では学部における卒業研究がなく、研究をしたければ4年制の博士課程に進学しなければなりません。しかしながら、薬学部で

は、古くより卒業研究の重要性が認識されており、6年制課程においても国公立すべての大学において卒業研究が教育課程に組み込まれています。本学では、5年次～6年次の2年間希望する研究室に所属し、研究活動を行うことができます。一般に研究は、①計画を立てる、②計画に基づき実験を行う、③実験結果を考察する、この3つの過程の繰り返しであり、必ずしも予想どおりの結果が得られる保証は全くありません。予想どおりの実験結果が得られない場合、どこに問題があるのかを繰り返し考えなければなりません。これが講義、実習・演習では得られない貴重な体験であり、問題解決能力の醸成及び研究マインドの涵養に繋がります。問題解決能力及び研究マインドを持った薬剤師の養成が社会から強く求められています。本学では、国家試験対策や研究スペースの確保の問題などから研究活動が形式的にならないために、学部主催の「特別演習・実習」ポスター発表会を開催し、研究室に配属される学生全員に対して十分な研究指導ができるように各研究室の教員に創意工夫をいただいているところです。今後、6年制薬学教育課程における卒業研究のあり方については、更なる改善をするとともに、学生諸君にあつては卒業までに一度は関連学会で発表できるレベルまで研究活動に真剣に取り組んでいただきたいと考えています。これがもう一つの6年制カリキュラムにおける特徴です。

また、平成24年3月実施の第97回薬剤師国家試験から、6年制教育課程に準拠した試験がスタートします。新しい国家試験においては、出題数が240問から345問に増加し、更に出題内容及び合格基準にも大きな変化が見られます。出題科目は、物理・化学・生物(60問)、衛生(40問)、薬理(40問)、薬剤(40問)、病態・薬物治療(40問)、法規・制度・倫理(30問)及び実務(95問)で、中でも実務からの出題数が最も多く、全体の25%以上を占めます。また、各科目から複合問題が出題され、特に実務では基礎から医療薬学、更には医療現場での問題解決能力まで幅広く問われます。このような試験に対応するためには、各学年で開講される講義、実習、演習に日々真剣に取り組む、じっくりと腰をすえて学習することが必要であると思います。本学では、以前から薬剤師国家試験の合格は学生に対するminimum requirementと位置づけていますので、学生諸君においては高い理想を掲げて勉学に励んでいただきたいと思います。

こつこつと知識・技能の積み上げを

教務部長 辻 坊 裕

「大阪薬科大学報 64号」が発行される時期は、後期定期試験を目前に控えている頃だと思います。昨年の11月に1年次から4年次までの成績が思わしくない学生を対象にガイダンスを行いました。当然ながらすべての学生には当てはまりませんが、彼らに共通して言えることは、普段の学習に問題があるということです。すなわち、目的意識が希薄なまま授業に臨み、理解できないところを試験目前まで放置し、定期試験及び再試験には、主に「過去問勉強」と「一夜漬け勉強」で臨んでいるということです。このような学習方法では、知識が身につかず進級がおぼつかないのは当然です。特に2年次、3年次の留年率が高い理由は、基礎教育科目の数が減少し、基礎薬学科目、応用薬学科目、医療薬学科目の割合が増加することにあります。これらの薬学関連科目においては、目的意識を持って授業に臨み、できる限り未消化部分を放置しないことです。授業で理解できない箇所は、自分自身で調べるなり、友人に聞くなり、担当教員に質問するなりして理解することが肝要です。これを実行するには当然一定の努力が求められますが、成績優秀者はすべてこのような方法を用いて、日々の学習に取り組んでいます。

今後は、各学年で開講される講義、実習、演習に日々真剣に取り組み、じっくりと腰をすえて学習する習慣を身につけて欲しいと思います。上滑りの単に暗記に依存した安易な学習法ではなく、毎日地道にこつこつと知識・技能を積み上げる作業が大切です。

本学には充実した医療薬学領域の知識を持ち、医療が求める実践的な能力及び医療人としての自負と倫理を備えた薬剤師の養成を目的とした教育を行う薬学部薬学科（6年制課程）と創薬研究者・技術者、環境衛生分野や行政などの分野で活躍する人材の養成を目的とした薬学部薬科学科（4年制課程）が併設されており、4年進級時にいずれかの学科を選択することになっています。本学では、薬科学科（4年制課程）を選択し、修上課程修了後に1年以上在籍し、所定の単位を修得すれば薬剤師国家試験の受験資格を得ることができると考えておりました。しかしながら、薬学関連諸団体は修士課程修了後に2年以上在籍しなければ受験資格を得ることができないとの判断をしております。今後、4年制学科を併設している国公立大学30校すべてがこの基準に則り、学生指導にあたることになっております。

図書館を大いに利用しよう！

図書館長 三野 芳紀

「学生に愛される図書館」を目指しています。皆様のご意見・ご感想など是非お聞かせください！以下に、最近のニュースを紹介します。

①自宅からの蔵書検索がさらに便利に

これまで学内に限られていた本学図書館の蔵書検索が平成23年から自宅のPCからでも可能になりました。平成24年は、携帯電話からも利用できるように改善していく予定です。図書・DVDなどの検索がより便利になります。勉学に大いに役立ててください。

②「教科書・参考書コーナー」で試験勉強を

4階の「教科書・参考書コーナー」では、1～6の

各年次別の「教科書・参考書（各教員指定）」を一ヶ所に集めて配架しています。このコーナーの参考書等を利用して、授業内容をしっかり理解しましょう。

③図書館資料は貸出期限内に返却しよう！

図書館資料の返却を忘れる学生がいます。多くの学生がそれらの図書を利用できずに困っています。図書館資料の延滞者をゼロにするため、図書館入り口に延滞者の学籍番号を掲示したり、館長名で呼び出しをした結果、かなりの改善が見られています。今後はさらに強い指導を行い、延滞者をゼロにする予定です。皆さんご協力ください。

④「SFX」リンクリゾルバで文献検索等の環境が改善

平成24年から、電子ジャーナルがさらに利用しやすくなります。「SFX」リンクリゾルバは、電子ジャーナルやOPAC等、リンク先のアクセス情報を集中的に管理し、利用者にとって最適な資料へのナビゲーションを実現する状況判断型のリンクナビゲーションツールです。利用者はSFXメニュー画面からワンクリックで最適なリンク先へアクセスできます。学習・研究に大いに役立ててください。

⑤「資料展示室」で本学の伝統に触れよう！

4階の第4閲覧室の奥に資料展示室があります。松原キャンパスの玄関から中庭を望む景色の扉が目印です。その扉を開けると、松原キャンパスや守口学舎の

時代にタイムスリップします。本学の創立期からの貴重な資料や昔の薬に関する資料が展示されていますので、是非、見学に来てください。一見の価値あり！図書館の開館時間内は常にオープンしています。

⑥大学基準協会(第三者評価)の視察で高い評価

大学基準協会(第三者評価)の視察で、図書館は大変高い評価を頂きました。特に、電子ジャーナルの充実、学習環境の良さ等が評価されました。

図書館のサービス概要は、ホームページで確認できます。『図書館利用案内』を熟読し、“高い評価”の図書館を大いに利用しましょう！

素敵な人生を歩むために

キャリアサポート部長 藤田 芳一
キャリアサポート課長 錦野 晴俊

皆さん、「目標と目的の違い」を知っていますか？将来のキャリアプランを考える上でこの違いをしっかり認識することは大変重要なことです。それでは、この違いを考えてみましょう。

よく伝えられる説明を引用しますと“目標とは単に目指すべき方向で、目的はそこに意味が追加されたものだ”とされています。(目的=目標+意味「insight NOW 村山 昇 キャリア・コーポレート コンサルティング代表 参照」)

ここで、ある事例を紹介します。昔、3人の職人さんが柱を削っていました。

そこを通りかかった人が職人さんに「何をしていますのですか？」と聞きました。

1人目の職人さんは「柱を削っているのです」と答えました。

2人目の職人さんは「生活するために働いているのです」と答えました。

3人目の職人さんは「歴史に残る大阪城を造っているのです」と答えました。

このとき、3人の職人さんの「目標」は共通です。すなわち、柱を削ることです。しかし「目的」はバラバラです。目標は他人から与えられることがあり、目的は自分で意味を見出すものです。

大学を卒業して歩む自分の人生において、「上司の命令や目標に動かされるのか」あるいは「自分の考え

た目的に向かって進むのか」では大きな違いがあるのではないのでしょうか。

仕事の目的は人から教えられるものではなく、意味を十分考え、自分の意志を持って、目の前の仕事から作りだすものです。自分で意味を考えることは大変なエネルギーが必要ですが、このエネルギーが自分を成長させる大きな原動力となります。何事を行う時でも「目的」を達成するために、しっかりと「意味」を考えて、ゴールイメージを明確にして、チャレンジしていきましょう！今後の就職活動を実りのあるものにするため、そして素敵な人生を歩むために。

それでは最後に、現在就職活動を行っている学生さんに次のことを贈ります。

就活(目標と目的)

- ・ 就活を行っている3人に聞きました。
あなたは何をしていますのですか？

翼君:みんな就活しているので私もやっています。
勇君:卒業した後の所属先を探しています。
魁君:自分の人生をチャレンジできる場を探しています。

あなたは誰と同じですか？



ルール、マナー、エシックス

学生部長 楠瀬 健昭

みなさん、2012年4月からの、キャンパス全面禁煙に、ご協力ください。ともに、Smoke-free Campusを実現しましょう。

3・11以降、市民レベルでは、たとえば、多くの寄付金が集められ、多くのボランティアが被災地で汗を流し、復興を支えようとしています。人として守り行うべき道、すなわち、エシックスが、人々の心の中にあるからこそ、人は、人としての務めを果たしているのだと思います。危機に際しても、冷静に対応し、人を思いやる気持ちを忘れない国民性に、諸外国の人々は驚嘆し、賞賛の声をあげています。

ひるがえって、私たちの日常を見れば、人として守り行うべき道が、忘れられることは、もとより、残念ながらルールやマナーが守られないことが、よくあります。マスコミをにぎわす様々な事件を見れば、明らかです。ありえないと思われることが、散見されます。

ところで、家庭教育の賜物と考えられますが、辛いことに、本学においては、ルールやマナーとエシックスをわきまえない学生は、きわめて少ないと思います。それでも、気になることは、いろいろとあります。バス乗車の際に、大声で話す、席を譲らないとの苦情、

単車の構内無断乗り入れ、自動車の近隣への（違法）駐車、立ち歩きながらの飲食、喫煙所以外での喫煙、講義への遅刻、講義中の私語と居眠りなどです。これらは、いずれも共同体の一員としての自覚を持てば、改善されるものと考えます。

いつも、おはよう、こんにちは、お疲れ様、ご苦労様でした、失礼します、ありがとうございます、さようなら、などの言葉があふれ、人々が和やかに挨拶を交わす、共同体でありたいと思います。人は、ひとりでは生きていけない存在なので、学生、教職員、警備員、食堂、ブックセンター、清掃員、そして訪問者も含めて、みんなが暮らしやすい共同体の実現、気持ちよく過ごせる環境の実現を目指しましょう。

自分、家族、友人、クラブ仲間だけでなく、大阪薬科大学、日本社会、地球全体を視野に入れ、日々の務めを果たそうではありませんか。私たちは、大学という運命共同体に集う仲間ですから、とげとげしい言葉で憎み合い、いがみ合い、ののしり合うのではなくて、楽しいときは、ともに喜び、悲しいとき、つらいときは励まし合い、お互いに譲り合い、助け合いながら、前進し、百年以上続く学園の堅実なる発展にも貢献しましょう。



大阪薬科大学と共に過ごした47年間

薬品物理化学研究室 教授 石田 寿昌

私は昭和40年4月、当時松原市高見の里にあった大阪薬科大学に入学し、以来47年間の殆どを本学と共に過ごしてきた。そして健康で本年3月末に定年を迎えることができることに感謝している。本稿では、私の学生時代と本学教員として学生とともに過ごしてきた経験から、学生に少しは役に立つのではないかと考えていることを「学生へのメッセージ」として述べたい。

学生に伝えたい経験を多くは持ち合わせていないが、在学中には出来るだけ多くの友人を作ること、勉強以外にもクラブやサークル活動等に参加して生涯に残る「思い出」を多く作ることを勧めたい。社会に出ても多くの友人はできるけれども、学生時代にできた友人は素直な気持ちで生涯付き合えるし、困ったときには忌憚なく相談できる相手でもある。私の場合、4年間続けたクラブ（柔道部）での練習や試合の経験は学生時代の素晴らしい思い出として、学科試験の思い出よりも遙かに鮮明に、いつまでも心に残っている。

私の学業成績は中程度で、いつも再試験や再々試験を受けていたが、留年することなく卒業することができた。因みに226名の同期生のうち留年した学生は2名で、現在と比べて極めて少ない。当時の科目数は現行と比べてかなり少ないので直接比較はできないが、留年数が少ない要因の一つとして、大学への進学率が今ほど多くない中、それなりの受験競争を乗り越えて入学した学生の多くには、本学で学ぶことの目的を今以上に強く自覚し、それ故、進級に直結する再試験や特別再試験では絶対に合格するという意識が強かったように思われる。これに比べ、現在では本学で学ぶ目的や意欲が希薄で、再試験でさえ受験放棄をする学生が多くなったように思われる。学生には学ぶ目的を明確にし、ここ一番に強い学生になってもらいたいと思う。このことは社会に出ても重要なことである。

就職については真剣に考えて決めてもらいたい。私の場合、自分のやりたい仕事は何か一定の結論を得るまでに長い間思い悩んだが、放射線の性質と利用に興味があったことから、最終的にはX線を用いた医薬品の構造と物性の関係について研究をされていた故井上正敏先生の薬品物理化学教室に助手として採用して頂いた。卒業後1年遅れでの就職であったが、今になって思うと、将来の仕事について真剣に悩んだことは私にとっては極めて重要なことであったと言える。これによって、現在まで殆ど迷うことなく、本学の教員として教育・研究に精一杯取り組むことができたと思え

るからである。学生諸君には、早い時期から十分時間を掛けて、自分に合った仕事を見つけるよう勧めたい。

薬品物理化学教室の助手として実習を担当する傍ら、粉末X線回折法や熱分析法を用い、「グリセロリン酸カルシウムの構造と物性」について、卒業研究のため配属された学生（特研究生）と共に研究を始めた。その後、研究をさらに進展・展開させる上で、当時黎明期にあったX線結晶構造解析法を習得することの必要性から、一旦職を辞し、大阪大学大学院薬学研究科修士課程に進学した。幸い、3年後に本学の同教室助手の再採用が認められ現在に至っている。これまでに情報科学、構造有機化学、生物物理化学、洋書講読ゼミ、大学院特論、井上先生退職後は物理化学の講義を担当する一方、400名以上の特研究生や大学院生と共に研究に取り組んできた。

研究面では超強力X線回折装置や核磁気共鳴装置等の研究機器の充実や遺伝子組み換え技術の進展と共に、研究テーマも医薬品や生体分子の構造解析から医薬品-生体高分子間相互作用の構造・機能解析へと展開させてきた。しかし、いつの時でも、その年度に行った研究成果は特研究生や院生を共著者として学術誌に掲載するようできる限り努めてきた。それは、共に頑張った学生の氏名がその研究成果と共に記録（文献）として永久保存されとの思いからである。これまでに発表した論文を眺めてみると、学術的重要度は別にして、自分が先頭に立って学生と一緒に実験を行っていた時の論文が最も思い出深い。当時は、講義・実習以外の時間的拘束は今ほど多くなく、研究に没頭できたのだと懐かしく思い出される。卒業生の多くからは、最終学年で未知な研究テーマの解明に取り組んだ経験は、社会に出てもからの課題を解決する上で極めて有意義であったと聞いている。それ故、学生諸君には、実務実習や国試対策で十分な時間はとれないとしても、卒業研究を通して同様な経験をしてほしいと願っている。大学での真の教育としては、既に確立された知識・技能を座学や実習・演習を通して修得させることに加え、未知なる研究課題に取り組み、問題を解決する能力を育ませることが不可欠であると思っており、学生が苦勞して目的を達成したとき、その教育効果は極めて大きいものがあると確信している。

いずれにせよ、学生諸君には、本学での在学期間を今後の人生を自分らしく送るための極めて重要な時期と捕らえ有意義に過ごしてほしい。

第7回特待奨学生表彰

学生部長 楠瀬 健昭

蛍雪の功あって、みごと特待奨学生の榮譽に輝かれた皆さんに、心よりお慶び申し上げます。

昨年度一年間、学部においては、各学年で必修科目・選択必修科目の平均点が高得点である、大学院1年次においては、大学院一次入試において成績優秀である、大学院2年次においては、顕著な研究成果をあげている、または有望な研究を遂行している、という観点から、特待奨学生としてふさわしい学生を、選考委員会において審議した結果、下記の皆さんが、平成23年度大阪薬科大学特待奨学生に選考されましたことを、ご報告申し上げます。

表彰式は、学長、指導教授、アドバイザー臨席のもと、

と、学部生および大学院M1については5月19日(木)、大学院M2については10月27日(木)に挙行され、理事長より奨学金目録の授与があり、訓示を賜りました。

学問、研究に日夜勇往邁進されている皆さんが、さらに高い志をもって、広く社会にも目を向け、語学力、幅広い教養も身につけ、世のため、人のために尽くすことのできる、有為な人材となることを期待します。また、将来的には、優れた研究者、薬剤師であるとともに、物事を深く捉え、本質を見抜くことのできる、優れた判断力を持った、見識ある一市民となるように祈念します。



学部特待奨学生表彰式



学部特待奨学生表彰者



大学院学生による研究成果発表会



大学院特待奨学生表彰者

平成23年度 大阪薬科大学特待奨学生 表彰者一覧

学部学生 (最優秀者1名、特別優秀者2名、優秀者4名(同率あり)の順)

2年次：大津 誠行 鎌田英里子 熱田 侑大 河野 楓 稲葉 桂子 能智 裕菜 吉田 優紀
 3年次：松原 州平 小田 幸奈 上村 健司 盛谷 翔太 天川 佳洋 若松 亮 山岸 一馬
 山崎 映美
 4年次：溝辺 雄輔 大洞 皓頌 大藤真由子 藤田 紀子 西川 友梨 西居 祐美 石橋 佳奈
 5年次：安達 咲希 吉開 晶一 永井佐知恵 柚山 美希 岸脇 由衣 小野 朝香 荻野なおみ

大学院学生

修士課程1年次：白井 常悟 小山 武志 藤末 大貴
 修士課程2年次：須佐 匡樹 松田 隆志 竹内 有沙

宴のあとに —第46回大薬祭に思う—

学生部長 楠瀬 健昭

わたしはまどろみ、いつまでも夢見ていた
すでに日輪は中天高く
カーテンのすきまからの光で
目覚めたが、まだ夢の続きを見ているようだ

宴は静かに始まり
やがて盛り上がると、とどまるどころを知らず
それでも
別れのときは、すみやかに訪れた

この身体中を駆け巡っていた熱い思いは
心地よい疲労感と充実感となって
今もわたしの中にある

繰り返される日々の営みの中で
過ぎ去った祝祭のときは、すでに遠く
キャンパスには若者の夢の軌跡は見えない

草萌える時より、時を重ね
思いを述べ合った祝祭のときは
すべて消えうせた

ただ、ひとときのハレの日のために
うだるような水無月の午後
手に汗握り、額を寄せあい語り合い
そして、今わたしは至福のときを感じる

やがて神無月
「あにまるパーク」はあれども
「あにまる」の楽園は夢と潰え
恐竜スライダー雨にぬれ
ゴリラも虚しくたずむことにはなったが
祭りの音楽は変わらず、この高台に響き
若者は歌い踊り
老若男女打ち揃い、破顔一笑、抱腹絶倒、拍手喝采する



あにまるカップリング（1日目）



Daiyaku Collection（1日目）

Club 対抗 Mogi 店、軒を並べ
ステージに、あにまる大集合と
あにまるカップリング
コーラスの歌声さわやかに
軽音、フォーク、ライブ喫茶にあまたの出演者あり
熱狂のダンス vivid bullet
Daiyaku Collection で華やかに幕を閉じる一日目

二日目
フリマ、模擬店に、人、物あふれかえり
植物園にも人の波
わびさびのお茶を一服
科学実験もまた楽し
ジャグラー星丸、話芸も巧みに
CM No.1 を争い、園児はほほえましく
大薬の王者ターザン舞台に乱舞し
見たくないのに、見てしまう美女は野獣
○×クイズに頭を悩ませつつも
この日も暮れて
吉本お笑い、さすがにプロフェッショナル
小ぬか雨そば降るとも
ダンスバトルに観客も踊る
勇気を出してカンポーパンダに挑戦
ファニートンボのおじさん、のんびりと
叫びの声はエネルギーに
ビンゴで盛り上がり
極めつけは、全身全霊ささげる陶酔の薔薇祭

夜は明けて、人々は
爾々と祭りの名残取り去りゆく
やがてキャンパスは日常にもどりゆく

第46回大薬祭を企画運営した大薬祭実行委員会の学生諸君、それを支えたOB、学生課職員の皆さん、ホームカミングデイ開催の同窓会の皆様、大薬祭に参加協力いただいた皆様様に多謝します。

第46回大葉祭「あにまる」を終えて

第46回大葉祭実行委員長 笹 結一

4月からコツコツ準備をはじめ、8月に実行委員全員で作業に取り掛かり始め、10月にやっと形がみえた今年の学園祭。そんな様々な思い出が残る大葉祭「あにまる」を終えて一抹の寂しさと大きな充実感、解放感を感じています。また実行委員長として一つの大きなイベントをやり終えたわけですが、みんなで協力して行うことの大変さを実感しました。それとは逆に実行委員一人一人が各々の仕事を全力で行った結果としてできたものは非常に大きく素晴らしいもので、それを身をもって感じられたことは、個人的なことになるのですが貴重な財産となりました。実行委員、そして頼りない私を最初から最後まで支えてくれた幹部のみんなには、いくら感謝してもしきれません。

そんなメンバーでできた今回の大葉祭。おそらく各年度の実行委員長も同様だと思いますが、私も過去の大葉祭にはない自分なりのオリジナリティーを出していきたいと考えました。

そこでまず私が思ったことは、パフォーマー（大道芸人）を呼ぶことでした。例年、大葉祭では3日間を通して中庭の野外ステージで学生によるイベントが行われています。各イベント班が2ヶ月以上の時間をかけて準備してきたものなので確かにどのイベントもおもしろいものばかりでした。しかし一方で、学生による催しばかりでは観客も飽きてくるのではないかと考え、ジャグラーの星丸さん、ワンマンライブミュージシャンのファニートンボさんと呼び、イベントの合間にパフォーマンスを挟むことを試みました。これにより、学生イベントに対する飽きを軽減させられました。またパフォーマンスを観にたくさんのお客さんが集まったため、その次に行われるイベントをさらに盛り上げることができたように思います。特に星丸さんは私のお気に入り、観客の心をしっかりとつかんだ、さすがと思わせるパフォーマンスでした。

次に私が目を付けたのはグラウンドでした。昨年、グラウンドの全面芝生化に伴い大きなスペースができたため、そのレイアウトをしっかりと作る必要があります。そこで私は“グラウンドに一体感をもたせる”ことを中心にレイアウトを考えはじめました。その狙いは各模擬店と隣の店との距離を近づけて配置し、つながりをもたせることによって、自分の行きたい模擬店だけでなく「ちょっと隣も見てい



第46回大葉祭実行委員 全員集合！

うか」といった具合に立ち寄ってもらうというものでした。そうすることで、各模擬店への来客者数が増加し各模擬店が活性化しますし、またグラウンドを絶えずお客さんでいっぱいにするのではないかと考えました。全体像としましては、階段を下りたところにフリーマーケットをダイヤ状に配置し、それを囲むようにクラブ模擬店、ふわふわ、世界の屋台、植木市、カラーセラピー、似顔絵展といったバラエティに富んだ模擬店を並べます。そして、それらの店の距離間を大きすぎず小さすぎずにする事で全体をコンパクトにして一体感を出せるように努めましたが、個人的にこれは成功だったように感じます。ただ、1つ残念だったことは天候が崩れてしまい、大葉祭3日目にうまくできなかったことでした。

その他の部分では、フリーマーケット担当者が懸命に案を練ってくれたおかげで、開催が危ぶまれたフリーマーケットをスムーズに行うことができ、大変賑わいましたし、リサイクルでは大人気芸人を呼ぶことができ会場は大爆笑に包まれました。また野外ステージではイベント部長が自らの時間を割きイベントの告知を行ったり陰で支えたりしてくれたため、全イベントを大きな問題なく行えましたし、それは総務部、装飾部、広報部の裏方仕事をこなしてくれたみんなの助けによるものでもありました。

などなど教えだしたらキリがありませんが、各担当者が本当に力をいれて頑張ってくれたため、今年も無事に大葉祭を終えることができました。しかし、これは私達実行委員だけの力でやり遂げられたわけではありません。理事長はじめ、学生部長、諸先生方、大学関係者の皆さま、毎年援助金をいただいている同窓会、育友会の皆さま、その他にもここには書ききれないほどの方々にお世話になりました。最後に、このような形で大変恐縮ではございますがこの場をお借りしまして一言お礼を言わせていただき、終わりにしたいと思います。本当にありがとうございました。

大葉祭2011 Photo Album



あにまる大集合 (1日目)

ライブ喫茶 (1日目)▶



CM No.1 (2日目)



お茶会 (2日目)



カンポーパンダ (3日目)



ゴリラでふわふわ (1日目)



美女は野獣 (2日目)



Dance Battle (2日目)



フリーマーケット (2日目)



薔薇祭 (3日目)



模擬店



おつかれ!

生化学研究室 — 『酵素の不思議』 から 『生命の不思議』 を解き明かす

生化学研究室はB棟5階の北側にあります。教員3名（教授：福永理己郎、准教授：井上晴嗣、講師：藤井忍）と学部学生27名（6年次生11名、5年次生15名、薬科学科4年次生1名）から成る、総勢30名の研究室です。4月からは新たに大学院修士課程の学生も参加することになっています。福永教授は2010年の11月に本学に赴任して来られましたが、この一年間で大学や研究室にもなじまれ、井上准教授、藤井講師と力を合わせて研究室の運営に奮闘されています。研究室では、学年の隔てなく活発に交流し（お喋りが過ぎてウルサイ時もありますが）、大変フレンドリーな雰囲気になっています。

生化学研究室では、『生化学』に基礎を置き、さらに細胞の働きを分子レベルで探求する『分子細胞生物学』としての研究を行っています。『生化学』とは、『生命現象を化学に基づいて理解する学問』です。生命体を構成する様々な化学物質（生体分子）を知り、それらが化学変化する流れ（代謝）を理解し、そして一連の化学変化を触媒する『酵素』を始め様々なタンパク質が働くしくみを研究します。生化学研究室では、『酵素の不思議』を出発点にして『生命の不思議』を解き明かそうとしているわけです。現在の具体的な研究テーマについて紹介します。

1. 好中球を作る細胞の増殖や分化のしくみを探る

好中球は、生体に感染した細菌や真菌を殺菌する役目を担う白血球です。好中球の元になる細胞を増やして好中球に分化させる顆粒球コロニー刺激因子（G-CSF）というタンパク質（サイトカイン）について、その作用メカニズムを研究しています。

2. タンパク質リン酸化酵素のしくみを探る

細胞の増殖や分化は様々なシグナル伝達タンパク質によって制御されており、その制御が破綻すると癌や様々な疾病の原因となります。代表的なシグナル伝達タンパク質であるプロテインキナーゼ（タンパク質リン酸化酵

素）による細胞機能の調節のしくみを研究しています。

3. リン脂質加水分解酵素の触媒反応のしくみを探る

細胞膜を構成するリン脂質を加水分解する酵素にはホスホリパーゼやスフィンゴミエリナーゼなど様々な種類があり、食物の消化だけでなく、細胞機能を調節する脂質メディエーターの産生に関わっています。これらリン脂質加水分解酵素を高度に精製して、酵素がどのようなメカニズムで化学反応を触媒するのかを研究しています。

4. ホスホリパーゼ阻害タンパク質が働くしくみを探る

ホスホリパーゼA₂の阻害物質としてヘビ毒から単離したタンパク質の立体構造を明らかにして、酵素に特異的に結合して阻害するしくみを研究しています。一方、この毒ヘビ由来の阻害分子とよく似たタンパク質（LRG）がほ乳類にも存在することが分かりました。そこで、ほ乳類のLRGタンパク質がどんな役割を担っているのかを研究しています。

5. グリア細胞が神経栄養因子を作るしくみを探る

脳のアストログリア細胞が分泌する神経栄養因子の産生を調節する物質を探して、その産生調節のしくみを研究しています。

生化学の方法を使って様々な酵素や機能性タンパク質の性質を詳しく研究して、それらを特異的に阻害したり活性化したりする物質を見つけ出すことが、新しい薬や治療法の開発につながります。毎日の実験は地味な上に多くの時間と労力の掛かるものですが、コツコツと結果を積み上げることで価値のある成果を生み出した時の感激こそが、研究の醍醐味です。生化学研究室の卒業研究では、1人1人に研究テーマを設定し、その研究目的へ向けての試行錯誤を通して科学実験の進め方や考え方を修得することを目標にしています。『研究を楽しみながら、真剣に取り組む』ことをモットーに、全員が研究室の一員として役割をもち、仲良く研究を進めています。生化学の研究に興味のある人は、いつでも研究室を訪ねて来てください。

（研究室5年次生の声）

・アットホームでみんな自由にのびのびと研究しています。1つの結果を出すのに時間もかかるし、急に大きな変化を感じることは少ないです。しかし、先生も手厚くサポートして下さるので、少しずつ成長を実感しています。

・失敗した原因を考え、工夫して実験を進めていくことにより、講義などでは得られない達成感が感じられます。



薬物治療学研究室

薬物治療学研究室は、平成22年4月から、前任者である田中孝生教授の定年による御退官により、現教授の松村人志に引き継がれました。現在、幸田祐佳講師、田中早織助手と計3名での指導体制となっております。新体制となって2年目の平成23年度より特別演習・実習の5年次生が配属されることとなり、現在14名の学生の皆さんが、共に活動しております。平成24年度には17名が新たに仲間に加わることとなり、計31名になる予定です。現在のところ、大学院生はおりません。

さて、研究の内容ですが、大きく分けて4つのテーマになります。教授の松村は、大学卒業以来精神科医をしておりますが、過去に10年程度、神経科学の分野で、睡眠の研究にも携わっていた経歴があります。なぜ睡眠なのかというと、精神科の多くの患者さんの好調・不調の諸変化は、通常は睡眠の状態（すなわち睡眠の質と量）と緊密に関係していることがよく経験されるからです。例えば、統合失調症の患者さんは不眠状態が悪化するのと並行して精神症状も悪化しますし、抗精神病薬を服用し始めた後、眠れるようになる頃に、精神症状も改善し始め、落ち着いてくるものです。うつ病の患者さんは、夜中や早朝に目が覚めるようになり、日中（特に午前中）には気分が非常に悪くなるのですが、治療により睡眠状態が改善されてくると、うつもそろそろ治ってくるなど感じられるようになります。その他の多くの精神科の疾患でも、睡眠の状態は良い指標になるのです。そこで、生理的な睡眠を豊富に取れるようになる薬か、あるいは何らかの技術が開発されれば、患者さんにとっては朗報となるだろうと考えたわけです。睡眠を研究する理由は他にもありましたが、長くなりますので、それはまた別の機会に述べます。

睡眠の研究で明らかになったことは、脳の前の方の領域の脳底表面の左右の真ん中に近い領域に、プロスタグランジン D_2 、 E_2 、 $F_2\alpha$ 、インターロイキン-1、 $TNF\alpha$ 、 A_{2A} アデノシン受容体アゴニストを作用させると、生理的に生じ得る最大限の睡眠が引き起こされることでした。その当時は、これら諸物質の作用部位に近い脳の内部に睡眠中枢があるとされておりましたが、これらの物質の中で、 A_{2A} アデノシン受容体アゴニスト以外は、その睡眠中枢ではなく、おそらく脳の表層、すなわち脳脊髄液が流れているクモ膜下腔あたりで作用していると考えておりました。また、 A_{2A} アデノシン受容体アゴニストの作用部位は、プロスタグランジン類の作用部位のすぐそばの脳の内部で、統合失調症やアルコール依存症等との関係が深いとされている側坐核あたりにあると考えられました。これら

の興味深い諸発見は、精神科疾患の病態生理と何らかの関係があるに違いないと予測するのですが、まだその実態は明らかになっておりません。

その後、松村は臨床心理士の人々と一緒に活動をした時期もありましたが、その中では、被験者の皆さんの主観的な訴え、考え、感じることをアンケート調査するなどして、得られた大量のデータを統計的に解析することで、精神科医が患者さんを観察して感じ取られる些細な精神と脳に関する現象が、統計的な基盤に立った上での言葉や数字として表現できることに気付かされました。このような技術を用いると、患者さんの主観的な感覚を、一種の検査データとして扱うことが可能になります。これにより精神科医の頭の中にあるもやもやしたアイデアを、客観的かつ合理的に表現できるようになり、脳の機能を新しい角度からとらえ直すことができるようになるかもしれないと思うようになりました。

このような背景から、精神科の諸疾患の病態生理や薬物治療について、よりユニークな研究ができればと考えております。また、脳の表面で生じている現象をより深く科学することができればと考えています。そして近い将来、この2つを結びつける大発見ができれば、大変愉快だろうと考えているのです。大阪医科大学の生理学の研究者等との共同研究もしておりますが、生理学的な研究とこちらの精神医学・薬物治療学・神経科学の研究とを融合させることができると一躍の進歩が期待できるかもしれません。また、前任者の田中孝生先生と幸田講師は糖尿病に関する研究を精力的に進めてこられました。その方向もさらに発展させて、脳におけるエネルギー代謝の研究にまで踏み込めればなおおもしろいことでしょう。

以上、研究室紹介にかこつけて大風呂敷を広げておりますが、学生の皆さんには、そのあたりを批判的に差し引いてお読みいただいた上で、このような方面にも興味と関心を持っていただければ幸いです。



臨床化学研究室

現代医療が目覚ましい進展は、臨床化学の著しい進歩に負うところが大きいのですが、この臨床化学は、分析化学と病態化学との2つの大きな柱を基盤にしています。当研究室は、その前身が薬品分析学教室(榎 健壽教授)、第2分析化学研究室(森 逸男教授)でしたので、その伝統と特長を十分生かしながら、分析化学的視点から、病態関連物質を対象として“光を用いて病気を測る”をテーマにして探索しています。本年度は、新たに助手として浅野麻実子博士(平成16年卒、当研究室)を迎え、山口敬子助教(昭和62年卒)、藤田(昭和46年卒)の3名教員体制となり、病態生理学1、病態生理学2、応用分析学、臨床化学、臨床検査学、病態生理学演習実習、薬局方総論、薬物治療学演習などの講義・実習科目を担当しつつ、6年次生13名、5年次生19名で、「挨拶を忘れず、元気よく、ケジメをつけて」をモットーに、日々賑やかに実験しています。

現在取り組んでいます研究テーマをもう少し具体的に述べますと、(1)化学プローブの創製とその利用に関する研究、(2)化学プローブ及び金属錯体のキャラクター化に関する研究、(3)病態関連物質の微量分析法の開発研究、(4)新規分析法の生体測定への応用に関する研究、(5)金属錯体の創製とその生理活性に関する研究などですが、これらに関連して、学外では国立病院機構大阪南医療センター、和光純薬工業、岡山大学薬学部、学内では馬場研究室、土井研究室、高岡研究室などとタッグを組み研究を推し進めています。その中で、当研究室が開発したピロガロールレッド-モリブデン(VI)錯体法(PR法、和光純薬工業などが発売)は、臨床現場において我が国における尿タンパク質量法の90%以上を占めており、腎障害

の早期発見に大いに貢献しています。また最近では、随時尿の補正值に重要な尿中のクレアチニン測定法も報告し、その試験紙がアークレイより市販されています。

本年度薬学部では、薬学教育6年制での第1期の学生が6年次生となり、いよいよ薬学部が完成した感がありますが、その方向性が決まったとはまだまだ言い難い状況です。しかしながら、高度医療におきましては、化学を基盤とし、化学に精通した薬剤師の役割がこれから益々重要になってくると思われます。化学の根底には分析化学がありますので、この際、「薬学における分析化学、臨床化学の役割」をもう一度検証し直すことも必要なのではないかと考えています。

最後に、私の在任期間も少なくなってきましたが、“人づくり”を第一目標として、もう一踏ん張りしようと思っております。この記事を読まれた学生の皆さん、どうぞ当研究室に気軽に訪ねて来てください。そして色々な話をしましょう！ 待っていますよ。

(記：教授 藤田芳一)

所属学生のコメント

5、6年次生で総勢32名と大所帯ですが、皆とても仲が良く、にぎやかな研究室です。春から正式に所属し、お花見、球技大会、夏には旅行など、イベントが盛りだくさんです。何より先生方も一緒に参加して下さることが、私たち学生にとって楽しめるどころだと感じています。「これからもこの雰囲気が受け継がれていって欲しい！」と思える、そんな臨床化学研究室です。



FD 委員会の公開授業と授業研究会（ピア・レビュー）について

FD委員長 春沢 信哉

大阪薬科大学では、平成19年からFD委員会が発足しています。FDとは、Faculty・Developmentのことで、FD活動を通じて学生を主体的学習者に育て、本学の教育の質を保証することを大きな目標としています。FD委員会は、「学生による授業評価アンケート」をほぼ全ての講義において行っています。また、公開授業と授業研究会（ピア・レビュー）を行うことも重要な活動の一環です。

公開授業では、授業科目を総合科学系、有機・生薬系、物理・分析系、生物系、医療薬学系の5つの分野にわけ、それぞれ1名の教員の授業にFD委員を含む数名のそれぞれの分野の先生方が参観し、その授業に対するアンケートをとっています。学生にもアンケートに協力してもらっています。公開授業の時は、学生の皆さんも普段より静かにしているので、いつもと違う雰囲気を感じていることと思います。私たちもその時は、緊張しています。それでは、「なぜこのような公開授業を行い、その後はどうしているのか」ということをこの機会に学生の皆さんにお話ししたいと思います。

参観教員ならびに学生から集められたアンケートは、FD委員が調査・統計処理し、これを基に授業担当教員、授業参観教員およびFD委員によって授業研究会が行われます。通常、公開授業の後、1か月以内にセミナー室等で研究会を行います。この研究会では、アンケート結果の報告の後、授業の方法、内容に関して意見交換が行われます。これは、授業を参観した先生方の授業の進め方の改善に役立っています。ピア・レビューのpeerは、辞書で、「同僚あるいは同じ専門分野の人」となっていることから公開授業と授業研究会



をそう呼ぶわけです。

これらの5領域のピア・レビューの後、さらに学生の皆さんも参加できる「公開授業研究会」を開催しています。本年度は9月13日(火)16時30分より、C102講義室で行いました(写真)。このため事前にポスターを作成し、副題を「大阪薬科大学における公開授業の現状と課題—授業評価の価値と活用—」としました。当日の参加者は、教員34名、学生は1名でした。この全体の研究会では、5領域で行われた参観授業の担当の先生とFD委員が授業の様子、その後の研究会の意見交換等について報告した後、参加者全員による質疑応答を行いました。1科目10分としましたが、5領域の報告・質疑応答が終わるのに1時間以上かかりました。参加学生からは、「先生方から授業への思いを聞くことができて良かった」という意見もありました。最後に、FD委員会の最初の委員長であり、FD活動に造詣が深い松島哲久先生がまとめをされ、「ピア・レビューにより、切磋琢磨し、FDに継続的に寄与することが大事であり、今後は大学院にも力を入れていくことが大切である」旨のお話をもって終了しました。

私から言えることは、どの先生方もより良い授業にするために継続的に努力をされているということです。事実、各学年の授業評価アンケートの項目12の総合評価は、「非常に良い」と「良い」を合わせると各学年ともほぼ60%です。そのため、学生の皆さんには先生方の努力に応えるような授業成果を発揮してもらいたいと切に期待する次第です。

(写真は2枚とも公開授業研究会の様子、9月13日(火)16時30分より、C102講義室)





薬物治療学Ⅱ研究室

教授 島本 史夫

この度、平成23年10月1日付で、薬物治療学Ⅱを担当させていただくことになり、大阪薬科大学の皆様にご挨拶申し上げます。

私は、昭和54年に大阪医科大学を卒業後、内科学Ⅱ教室に入局し、消化器病専門医・消化器内視鏡専門医として第一線での診療を行い、老年病専門医として高齢者医療にも携わってきました。同時に、消化管粘液の合成・分泌に関する生体化学的研究をライフワークとし、アメリカ・ミシガン大学で学んだ胃粘液細胞単離培養に関する知識・技術を大阪医科大学研究機構で継続・発展させ、胃潰瘍や急性胃炎の病態解明に取り組んでいます。オランダ・ユトレヒト大学では胃運動機能測定法について学び、加齢と消化管運動・消化吸収機能に関する新知見を得て、高齢者消化器疾患

診断・予防への臨床応用を目指しています。平成19年から大阪医科大学教育機構に移り、医療系共用試験実施評価機構ワーキンググループの一員として共用試験OSCE医療面接全国共通シナリオ作成やCBT問題作成・ブラッシュアップなどにも携わってきました。

現在の医療現場ではチーム医療が重要視され、臨床薬剤師は「薬の専門家」としてのプロフェッショナルリズムを持って対等の立場で適切な意見を述べる事が要求されます。そのためには人体の構造・病理や代表的な疾患の病態生理・疫学など幅広い医学的知識の修得が必要となります。患者との良好なコミュニケーションは、患者のコンプライアンス、満足度、身体的・心理的アウトカムの改善をもたらすため、医療人としての態度教育も大切です。

臨床医としての経験と臨床研究から得たエビデンスに基づいて、社会的ニーズに即応した教育、本学学生の資質向上と本学の更なる発展のため、粉骨砕身努力する所存ですので、ご指導・ご支援いただきますよう宜しくお願い申し上げます。



薬物治療学Ⅲ研究室

教授 林 哲也

平成23年10月1日付で薬物治療学Ⅲ研究室に着任しました。私は、昭和56年に大阪医科大学を卒業、内科にて研修後、日々の臨床と並行して電子顕微鏡を用いた微細構造学的研究を開始しました。学位取得後は米国テキサス大学医学部ガルベ斯顿校のInstructorとして勤務、同時にThomas N. James学長の指導のもと世界保健機構(WHO)心臓血管センターにて心筋刺激伝導系や冠動脈化学受容体の研究を行いました。帰国後は、大阪医科大学にて循環器内科の診療に従事、平成16年からは附属病院臨床治験センター長として治験の活性化に取り組んできました。これまでの経験を活かして、臨床現場が必要とする薬剤師の育成に全力を注ぎたいと考えています。また、研究面では動脈硬化や心不全発症・進展におけるメ

カニズムの解明、新たな治療法の確立とトランスレーショナルリサーチの実践を目指すつもりです。学生諸君の積極的な参加を期待しています。

趣味は、中学生時代から硬式テニスにはまっており、現在も時間を見つけてはコートに立っています。大学時代は主将を務め、西日本医学生大会では優勝4回、近畿大会では優勝5回を経験しています。現在、大阪医科大学硬式庭球部OB会長ですが、大阪薬科大学においても硬式庭球部の顧問に加えて頂くことになりました。出来る限り現役諸君の練習にも参加して、団体戦に勝利する喜びを共に味わいたいと考えています。その他、ゴルフやスキーなど体を動かすスポーツが大好きですし、その後のお酒もやめられません。コンパのときは声をかけてください。どうぞよろしくお願い致します。

就任後1ヶ月でようやく日常生活が落ち着いてきました。これからは歴史のある大阪薬科大学のために全力を尽くす所存です。先輩諸氏のご指導、ご鞭撻を何卒よろしくお願い致します。



生体防御学研究室

助手 小池 敦資

平成 23 年 8 月 1 日に生体防御学研究室の助手に就任いたしました小池敦資と申します。私は、製薬会社での研究と大学病院での臨床薬剤師を経

て、本学に就任いたしました。学生の皆様と直接接する機会は、衛生薬学実習と特別演習・実習での教育研究活動だけですが、様々な職種を通じて学んだことや経験を生かしていきたいと考えております。これからの薬剤師は今まで以上に変革が求められております。どの分野でも活躍できる一流の薬剤師、人間として成長できるお手伝いのできればと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。



機能分子創製化学研究室

助手 中川 治

この度、平成 23 年 8 月 1 日付で機能分子創製化学研究室（浦田秀仁教授）の助手として着任いたしました中川 治と申します。大阪大学にて博士を取得後、九州大学薬学部で助教／助手として 5 年間

勤務しました。その後、思い切って渡米し、ノースカロライナ大学チャペルヒル校にて博士研究員として約 2 年半、薬学研究に従事しました。留学中は世界中から集まった研究者と日々切磋琢磨することで、多くの貴重な経験をする事ができました。

これまでの経験を生かし、微力ではございますが本学の教育研究に貢献できるよう努力する所存ですので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



薬品作用解析学研究室

助手 清水 佐紀

平成 23 年 10 月 1 日付で薬品作用解析学研究室（大野行弘 教授、河合悦子 講師）の助手として着任いたしました清水佐紀と申します。

私は、平成 22 年 3 月に本学修士課程修了後、製薬企業の研究所にて安全性薬理に関する研究に従事しておりました。

今後は、母校でもある本学の薬学教育に少しでも貢献できるよう、責任を持って学生指導にあたりるとともに、研究活動にも邁進していきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

早期体験学習を終えて

早期体験学習委員長 田中 麗子

1. はじめに

平成 18(2006) 年 4 月からスタートした薬学教育 6 年制は、医療の担い手となる薬剤師養成を第一の目的として設置され、そのカリキュラムの 1 つとして早期体験学習 (early exposure) が実施されています。早期体験学習の目標は、薬学生として学習するモチベーションを高めるために、卒業生の活躍する現場などを体験し、薬学の社会における重要性やその役割について学習することにあります。

2. 早期体験学習とは

早期体験学習の特徴は、少人数グループ学習 (SGL) を基本として、学習目的や見聞内容などを学生間で討議しその内容を確認・発表する“学生主導型”であることです。またその過程で必要となるグループ内での意思疎通や訪問先の医療・企業関係者からの知識入手に必要なコミュニケーション能力を修得させることでもあります。このような能動的な学習姿勢および協調的態度は医療人として必須のものであり、早期体験学習を通じてこれらを低学年で修得することは、6 年間の基本的学習態度を打ち立てるのに有効と思われます。体験内容としては“病院”、“保険薬局”、“企業”を知る、の 3 項目とし、全学生がこれら全てについて学習を実施できるようにしました。

3. 早期体験学習活動

本年度前期の「早期体験学習 1」は、近隣の病院 (17 施設) と本学附属薬局を見学し、後期の「早期体験学習 2」では製薬企業 (9 社) の見学を行いました。まず、前期の訪問は、本学実務実習担当教員及び附属薬局薬局長から薬剤師の社会における役割や重要性に

ついて導入講義を行いました。その後、4 月～5 月前半には学生約 6～11 名+教員 1 名のグループに分かれ、病院訪問を実施しました。まず、訪問前のプレスマールグループディスカッション (1 回)、病院訪問、ポストスマールグループディスカッション (1 回) の流れで実施しました。5 月後半～6 月には学生 40 名+教員 2 名のグループに分かれ、プレスマールグループディスカッション、薬局訪問、ポストスマールグループディスカッションの順で実施しました。

また後期は製薬企業から講師を招き、企業での薬剤師の役割や創薬、製薬企業の社会的役割等についての導入講義を行いました。その後、学生約 20 名+教員 2 名のグループに分かれ、訪問前のプレスマールグループディスカッション、企業訪問、ポストスマールグループディスカッションの順で実施しました。プレスマールグループディスカッションでは、実習の目的を確認し、薬学・薬剤師の社会での役割、訪問先の情報、等を学生間で討議し意見をまとめ、その後発表・討議を行いました。また訪問後のポストスマールグループディスカッションでは見学内容の確認を行った後、見学で学んだことや今後の 6 年間の勉学に対する姿勢、将来への抱負、等同様に討議し発表してもらいました。最後に、各自、報告書の提出を義務づけました。

4. 「早期体験学習」体験学生からの報告書

～病院見学報告書から (A さん) ～

今回、私がこの早期体験実習で病院を訪れ、最も感銘を受けたことは、薬剤師の業務は、医師から独立し、別の角度からチェックするという事です。また薬剤師の服薬指導とは正確かつ適正な医薬品情報の提供であるということです。この病院の薬剤科は、“肺がんグループ担当”や“呼吸器グループ担当”、“神経・筋グループ担当”、“治験担当”など、様々なグループ

に分かれて活動しているということを知るととても驚きました。また、院内を見学させてもらい、日ごろ見慣れない調剤をしている風景や薬剤の管理システムを目のあたりにし、薬品の大切さを知るとともに薬剤師の役割の重要性がわかりました。薬剤科の先生のお話の中で、東日本大震災のために、今薬剤師にできることは何かというものがありました。薬剤師は、被災者に的確なお薬を提供し、限りある薬を有効に使えるように指示を出す、などというものでした。今の日本で最も大切な業務に携わることのできる薬剤師という職業に私はとても魅力を感じました。今回の体験実習で、病院薬剤師の大変さや苦勞、また大切さや重要性を知り、今まで考えていなかった世界へ目を向けることができ実りの多い一日でした。ありがとうございました。

～企業見学報告書から（Bさん）～

まず、企業の活動内容、主に新薬が開発されるまでの概要についての説明がありました。この企業では主に抗がん剤やRNAに着目した新薬の開発に力を入れており、そのほとんどが化学合成による薬品であります。新薬開発のステップとしては、化学研究、生物研究、安全性研究、薬物動態研究、薬剤研究、製薬技術研究があります。その中で薬物動態研究（非臨床研究）に興味を持ちました。これまでに私が知っていたのは、マウスやラットを用いた実験でしたが、その他にも犬やサル、ウサギやフェレットなどの動物も用いられていることを初めて知りました。その動物の特徴によっ

て使い分けていました。例えば、心拍を調べるにはラットよりもモルモットを用いることが多いということを教えて頂きました。それはモルモットの方がより人間に近いイオンチャンネルを有しているからであります。今回、私たちのためにモルモットの心電図を準備して頂き、実験も見学させて頂きました。心拍のことで分らない部分があり、知りたいと思いました。企業での仕事内容はほとんど知らなかったもので、今回実際に見学できてとても勉強になりました。製薬関係の機械や動物実験など驚くことが多かったです。将来どの方向に進むか、視野が広がるととても充実した見学実習になったと思います。知りたいことも増え、モチベーションも上がったので、これからの勉強にとってプラスになったと思います。

5. おわりに

学生の報告書やアンケート結果から殆どの学生が今回の早期体験学習に満足しており、病院薬剤師、開局薬剤師、あるいは企業に対する関心や理解の向上、将来の目標の設定、学習に対する向上心が認められました。このことは早期体験学習の学習目的である「薬学や薬剤師業務に対する関心や意欲の向上」を十分に達成できたものと思われます。最後になりましたが、本実習にご理解とご協力を頂いた病院や企業の関係者に対してこの誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。

平成22年度論文助成金(研究委員会)

平成22年度論文助成金について、
交付件数は68件、交付総額は9,519,267円
でした。

教育研究施設の紹介

動物関連研究施設

動物関連研究施設管理責任者 安田 正秀

動物関連研究施設を紹介するにあたり、わが国に於いて、過去に見られた『動物実験環境の根幹を揺るがす痛ましい事例』を示します。それは、昭和45年から50年代に亘り、主として全国の医学系の22の教育研究機関で動物実験に従事する126名が腎症候性出血熱(HFRS: hemorrhagic fever with renal syndrome)に感染し発症しました。昭和56年2月には発症者のうち1名が死亡するに至り、実験動物関係者のみならず一般世間に大きなショックを与え社会問題までに発展し、動物実験環境におけるバイオハザード(biohazards、生物学的災害)対策の重要性を知らしめる事例となりました。

HFRSはネズミを媒体とした人畜(獣)共通感染症の一つで、HFRSウイルス(hantavirusの一種)に感染したネズミは不顕性感染で発病しませんが、ヒトが感染した場合、突然の出血および腎障害を伴う40℃以上の発熱が3~4日継続し、最悪の場合は死に至る病気です。現在でも中国、韓国においてはセズジネズミを媒体とした流行性出血熱、韓国型出血熱などの風土病として発病者が出ているといわれています。わが国では、昭和30年代に、大阪の中心地・曽根崎地域において、一般地域住民119名がHFRSウイルスの感染による『梅田奇病』に罹患しそのうち2名が死亡しています。都市開発が進んだ現在では、発病者は出ていませんが、港湾などに住み着いているネズミはこのHFRSウイルスをある程度の割合で保有しているといわれています。

動物実験関係者におけるHFRSの発症は、HFRSウイルスに感染した野ネズミが動物実験施設内に侵入し、野ネズミより実験動物がHFRSウイルスに感染し、その動物の糞尿のエアロゾルをヒトが吸い込む、あるいは採血時に誤って針を刺す、噛まれるというアクシデントによってHFRSに罹患したと考えられています。

大阪薬科大学では、このような状況の下、これまで以上の厳格な管理下での動物実験環境の重要性から、実験動物施設の持つべき設備・機能および規模が検討され、昭和55年7月、松原キャンパスにおいて実験動物センターが建築・竣工し、同年9月から稼働することになりました。松原キャンパスから高槻キャンパスに移転した平成8年3月からは、新しく実験動物センター(現有の動物関連研究施設)を稼働させ現在に至っています。

動物関連研究施設はB棟(研究棟)地下1階に位置し、約886㎡の占有延床面積の施設であり、『GLP

基準(医薬品の安全性試験に関する非臨床試験の実施の基準に関する省令)』および『実験動物の飼養および保管に関する基準』等を考慮して、動物飼育室、実験飼育室、実験室、感染動物実験室、洗浄室、管理室および空調機械室その他付属設備を有しています。給気系統にHEPAフィルター(高性能フィルター)を組み込み、清浄に処理した新鮮な空気を各室に供給し、静圧を保持することにより、各室を外界から完全に隔離して、可能な限り清浄な環境下で実験動物の飼育管理および動物実験が遂行できる設備および機能を有しています。そして、その機能を維持するために、運用面では、飼育室・実験室などに持ち込む飼育器材などはオートクレーブ(高圧蒸気滅菌器)で滅菌し、ヒトは必要に応じてマスク・手袋・帽子を着用し、着衣・履物も数回交換して入室するなど、細心の注意を払い飼育室・実験室を清浄に保つようにしています。感染動物実験区域では、それに加えて、排気は高性能フィルターを通して行うとともに使用済みの実験器材、実験排水および動物はオートクレーブで滅菌した後、外部に排出して、本学教職員・学生および地域住民に対するバイオハザード対策にも充分注意を払って運用されています。

また、再現性のある動物実験成績(反応)が得られるように、動物飼育室および実験室は常時、温度24±1℃、相対湿度55±10%に保持するとともに、照明は午前6時に点灯、午後6時に消灯とし、日内変動を一定に保つように配慮しています。

このように、本学の動物関連研究施設は薬学の教育・研究に必須のマウスやラットなどを用いた動物実験を可能とする一定条件下で厳密かつ安全に行えるように設計された最新施設であります。一方、実験動物の飼育には、一部に自動飼育設備を採用し、設備管理の高能率化、厳密化をめざすとともに、飼育設備の充実、施設の効率的かつ合理的な運営を図っています。

また、動物関連研究施設の利用は、オリエンテーション(教育訓練)を受講した教職員・学生のみが入退室を許可され、ICカード(職員証・学生証)リーダーにより、利用登録者のみが入り出りできるようになっています。

学生諸君が、将来、動物関連研究施設を利用する場合には、細心の注意を払い、動物関連研究施設の設備・機能に支障を来さないように努めてください。

平成23年度市民講座を終えて

市民講座委員長 天野 富美夫

本年度は、第31回市民講座を3大学（関西大学・大阪医科大学・本学）連携事業の一環として、また、第32回市民講座を本学独自の市民講座として、下記のとおり開催いたしました。

第31回市民講座については、3大学の講師による講演に加え、参加者からの老後に関する様々な質問に対するパネルディスカッションも実施し、3大学連携の特色を活かした市民講座となり、第32回市民講座については、糖尿病の新薬の紹介や健康食品の効果、糖尿病と歯周病との意外な関係について講演をいただきました。

また、従前からの「くすりの相談室」「薬用植物園の見学」「図書館・資料展示室の見学」も併せて開催し、「くすりの相談室」では近隣の病院及び薬局からの協力を受け、第一線で活躍中の薬剤師の先生方に、薬に関する様々な相談に応じていただきました。

本年度の参加者数については、前年度から174名増加の延べ601名となる大変盛況な市民講座となり、これもひとえに多くの皆様方のご支援の賜物であると心より感謝いたしております。この場を借りて厚く御礼申し上げます。今後とも、地元の市民の方々はもちろん、本学教職員及び学生、並びにそのご家族の皆様方の参加を期待しております。

最後に本講座の開催にあたり、ご共催をいただきました高槻市、ご協賛をいただきました(社)日本薬学会近畿支部、(社)大阪府薬剤師会、(社)大阪府病院薬剤師会及び大阪薬科大学同窓会、並びにご後援をいただきました大阪府、高槻市教育委員会、高槻市薬剤師会に厚く御礼申し上げます。

平成23年度市民講座

(敬称略)

第31回（3大学連携事業）

5月21日(土) 13:00~16:30

『快適で健やかな老後のために』

1. 高齢化社会と食の関係
～今まで何を食べ、これから何を食べていくべきか～
関西大学 化学生命工学部
生命 生物工学科 教授 福永 健治
2. 高齢者に多い神経の病気
～知っておきましょう病気と薬～
大阪薬科大学 薬品作用解析学研究室
教授 大野 行弘
3. 神経内科の立場から
大阪医科大学 内科学I教室
准教授（神経内科 科長） 木村 文治
4. 3大学によるパネルディスカッション

第32回

10月15日(土) 13:00~16:30

『糖尿病に向き合う』

1. 糖尿病に薬と健康食品はどのくらい効果がある？
国立病院機構京都医療センター 臨床研究センター
予防医学研究室 研究員 岡田 浩
2. 歯周病と糖尿病のかかわり
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
歯周歯内治療学分野 教授 永田 俊彦



第32回 岡田 浩 先生



第32回 永田 俊彦 先生



第32回 会場風景

ドイツのシュツットガルト市へ —国際交流基金助成事業報告書—

大学院1年次生 臨床薬剤学研究室 般若 夏樹
古川 裕一

はじめに

この度、大阪薬科大学国際交流基金助成事業に採用して頂き、国際交流の目的で、平成23年10月1日から7日までの期間、ドイツのシュツットガルト市へ行ってきました。Katharinenhospitalへは予定通り訪問することができましたが、Tubingen UniversityとMargarete Fischer Bosch Institute for Clinical Pharmacologyは先方の都合により急遽現地で中止となり、訪問ができませんでした。その代わりに、同市内で10月2日から10月6日まで開催されていたInternational Association of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology (IATDMCT)学会へ一部参加をすることができ、有意義な国際交流を経験することができました。



Fig.1 Katharinenhospitalのエントランス

Katharinenhospital 訪問

Katharinenhospitalは病床数890床で17の診療科をもつシュツットガルト最大の病院です。また、地域の病院の拠点病院として機能するとともに、在宅医療においても重要な役割を担っています。

病院に到着し、まず驚いたことは現代的なその建物でした。エントランスホールには天窓から太陽の光が注ぎ込み、木が植えられるなど日本人であれば病院と聞かなければわからないほどでした。ほどなくして今回大変お世話になったProf. Wielandにお会いすることができました。担当の方から病院の拡大と各診療施設集約などの目的で現在行われている工事に関する説

明がありました。新しい施設には病室一部屋当たり2つのベッドが標準とされていることや、窓からの景観を意識して屋上には植物が植えられていることなど、施設の随所に患者さんへの細かな配慮が施されていることがうかがえました。体調がすぐれないときは精神的にもまいってしまうものですが、このような明るい院内は、患者さんが病人であると感じさせない魅力がありました。

また、今回の工事にかかった多額の費用は税金と病院の収益でまかなわれており、税金の使用に関して市民の理解を得る義務があると説明を受けたのですが、Katharinenhospitalでは薬物使用の判定などで薬物乱用問題に関して一役を担っていること、病院が地域の女性や子どもを守るために必要であることなどから市民の理解が得られているそうです。企業とは異なる病院の公共性や社会的重要性を再認識するとともに、税金の使い方や病院の運営などの違いに興味を持ちました。

その後、病態生理学検査室や中央検査室、培養検査室、薬剤部を見学させて頂きました。病態生理学検査室では、地域の病院からも検体が集められ、その量は1年あたりおよそ4万検体にも及び、結核などの遺伝子診断や原発癌か転位癌か等、染色による癌の診断が行われています。また、中央検査室においても大量の血液検体が集められてきます。ここでは検体はすべて



Fig.2 薬剤部



Fig.3 般若発表風景



Fig.4 古川発表風景

バーコード管理されており、バーコードに記録された個人情報や検査内容に従って、機械によって検査されていきます。一つの検体につき、約 100 程度の検査項目を実施することが可能だそうです。

薬学を学ぶ者として一番気になるところと言えば、薬剤部ですが、薬剤部として紹介された部屋に入ると、まるで工場のような機械が導入されており、棚には箱に入ったままの医薬品が大量に並べられていました。これは Katharinenhospital の薬剤部が、院内の薬剤部としての機能のほかに、シュツットガルト地域にある 8 つの施設の医薬品の備蓄と配送を担っているためだそうです。中間卸売業者を介さず、企業から医薬品を直接買い付けるその柔軟な姿勢に驚きました。

施設見学後、私たちの研究内容、また、日本の医療制度や薬学部の教育カリキュラムなどについてスライド発表を行い、意見交換を行いました。今後日本がどのような医療サービスを行い、薬剤師がどのように医療に関わっていくのかについて、再度考える良い機会となりました。

IATDMCT 学会参加

学会の発表内容は大きく、治療薬物モニタリング (TDM) と臨床毒性学 (CT) の二つに分類されており、臨床に直結した内容が多く、医療従事者の方が多数参加されていました。ポスター発表の内容は抗菌薬や免疫抑制薬を中心に行われ、臨床現場で応用が期待される、簡易かつ迅速な医薬品の血中濃度測定法の確立といった発表が多く見受けられました。私達は普段基礎研究を行っているため、実験の精度を重視していますが、臨床現場では精度よりもスピードやコスト、利便

性などが重要視されており、基礎研究と臨床研究の違いを実感しました。

また、学会では学会参加者と交流する場が多く設けられていました。私達は挨拶程度の簡単な会話はできたのですが、挨拶に続く会話となると、日本語は浮かぶものの英語で表現することができず、とてももどかしさを感じました。しかし表情やジェスチャーから伝わることもありました。日本語を話す時でもジェスチャーを加えれば、さらに相手に伝わり、理解してもらえるものだと思います。

今回の国際学会参加では勉強だけでなく、多くの方と接することができ、少しは国際交流に貢献することができました。

国際交流を終えて

今回現地の大学へ行き、同年代の薬学生と交流できなかったのは残念でした。しかし、初めて海外を経験し、海外の方と接することで、言葉を使わないコミュニケーションの存在や文化的背景の違いを実感することができました。また、英語は苦手科目でしたが、英語を使うことで、英語に対する意識が勉強科目から生の言葉へと変化し、さらに英語を学び、もっと他国の人のことや考え方を深く知りたいと思うようになりました。うまく表現できないのですが、経験しなければ決して感じる事のなかったことが、自分達の中の何かを大きく変えたように思います。今回の経験を通じて学んだこと、感じたことを大切に、さらに視野を広げ様々なことに挑戦していきたいと思います。

今回の国際交流においてご支援くださいました多くの方々へ心より感謝申し上げます。

ストレスについて ー学生相談室だよりー

学生相談室相談員 小田 佳子

私たちは日々の生活の中でストレスを感じる事がよくあります。それどころか、現代社会はストレス社会だと言われているくらいストレスにあふれています。

今回はストレスについて簡単に整理してみたいと思います。ストレスにはいろんな種類がありますが、心理・社会的なストレスについて触れてみます。

皆さんは、どんなときに「ストレスがたまっているなあ」と感じるでしょうか。憂鬱な気分が続く、やる気が出ない、不安になるなど心理的に変化が起こったとき。あるいは、肩や首が凝る、おなかの調子が悪いなど身体に変化が起こったとき。もしくは、やるべきことがスムーズにはかどらない、失敗が続くなど行動面で変化が起こったときでしょうか。

ストレスの源や原因となるものをストレッサーといいます。先に挙げたような心身の変化のことをストレス反応といいます。ストレッサーは一時的なものであったり、慢性的なものであったり、複数重なっていたりします。災害、家族との死別・離別、結婚などと生活に大きな影響を与える事柄から、学校・家庭などの人間関係や仕事、勉強、家事などごく日常的な事柄までいろいろあります。学生の立場でも、友達関係、重大な試験、バイトや部活の役割など、ストレッサーとなりうる事柄はたくさんあると思います。しかし、同じストレッサーでもその質や量の違いもありますし、受け取る人の考え方や感じ方、周囲の支援状況などによってストレス反応は変わってきます。

それでは、ストレスを感じた時どのように対処していけばいいでしょう。まずはストレッサーが何であるかを見極めます。そして、次のようなことに取り組んでみます。①原因となる事が解決するように行動してみる。②受け止め方を変えてみる。③環境を変えてみる。④リラックス方法を身につけて実践する。たとえば、自分とは違うタイプの友達との関係がギクシャクして、ストレスを感じているとします。①では、ギクシャクした関係を解消するために、メールで様子をうかがってみる、その友達と直接話してみるなど。②では、自分が友達を誤解していないか見直してみるとか、自分とは考え方が違う人なのだと割り切って、無理に合わせようとしない、相手にも合わせさせようとしないなど。③では、会わないようにする、挨拶だけの付き合いにするなどがあります。実際には、状況によって様々な方法を組み合わせて使っているかと思います。④の方法は、直接ストレッサーを取り除くことにはつながりませんが、ストレスの影響を軽減させま

す。たとえば、緊張をほぐすために深呼吸をすとか、気に入った音楽を聴いて、頭を休めるなどがあげられます。これらの対処方法は、生活の中で知らず知らずのうちに身につけていることばかりかもしれません。しかし、ストレスフルな状況に巻き込まれて、自分でもわけがわからなくなることもあります。そのような時はちょっと整理してみてください。自分には手に負えないことでも、人に相談したり、頼ったりすることで、ストレス反応が和らいだり、先に挙げた対処方法がより効果的に働いたりすることもあります。

ストレスという悪い印象がありますが、まったくストレスがない生活は逆に生ぬる過ぎて味気ないものです。多少のストレスがあるからこそ、ストレスに対する抵抗力が身につく、次のストレッサーを乗り越える力がついていくものです。程よいストレスは、生活のメリハリを生み出してくれます。そして、人間として成長させてくれます。ストレスをなくすことは無理ですが、最小限にして、うまく付き合っていけるといいですね。

学生相談室

本学では、学生相談室を設け、週に2回、カウンセラー（専門の臨床心理士）が相談を受け付け、学生が抱える問題や悩みに対処しています。



小田佳子相談員
(木曜日担当)



川端康雄相談員
(火曜日担当)

開室時間：毎週火・木曜日 12:00～16:00
TEL：(072)690-1077 (直通)
E-mail：counsel@gly.oups.ac.jp

《場所》A棟1階



総務課

■ 人事

<大学関係>

採用 (平成23年8月1日付)

助手 (嘱託職員) 小池 敦資

助手 (嘱託職員) 中川 治

(平成23年10月1日付)

教授 島本 史夫

教授 林 哲也

助手 (嘱託職員) 清水 佐紀

併任 (平成23年8月1日付)

防火・防災管理者 楠瀬 健昭 (教授)

大学院博士前期課程担当教員 松村 人志 (教授)

大学院博士後期課程担当教員 島本 史夫 (教授)

大学院博士後期課程担当教員 林 哲也 (教授)

(平成23年11月1日付)

統括管理者 (自衛消防隊長) 辻坊 裕 (教授)

(平成23年12月1日付)

衛生管理者 辻 悦子 (健康管理支援室長)

産業医 柚木 孝仁 (校医)

配置換え (平成23年11月21日付)

施設課員 藤井 健史 (教務課員)

客員研究員 (平成23年7月1日付)

森 龍彦

林 哲也

高井 真司

金 徳男

(平成23年10月1日付)

阪本 英二

森脇 将光

(平成23年11月1日付)

北村 一泰

招へい教授 (平成23年11月1日付)

北村 一泰

非常勤講師 (後期:平成23年9月12日付)

伊藤 信也 (異文化言語演習2)

井上 径子 (英語2)

小川 賀偉 (医療薬剤学1)

神竹 道士 (ドイツ語3)

下川 敏雄 (情報科学)

鶴 真一 (フランス語3、異文化言語演習2)

東井 孝之 (異文化言語演習2、薬学英語2)

中野 隆史 (病原微生物学)

中村 恵 (ドイツ語3、異文化言語演習2、人間

と文化4e(ドイツ語・フランス語)、人

間と文化4c(人間と文学))

林 恭平 (生物統計学演習)

林 武文 (情報科学)

樋口 久 (英語2)

藤本 幸治 (異文化言語演習2)

榎矢 桂一 (ドイツ語3、異文化言語演習2、人間
と文化2)

Ian Murray Richards (英語4)

Joseph Michael Jacobs (英語4)

<法人関係>

理事長就任 (平成23年6月28日付)

矢内原千鶴子

理事長退任 (平成23年9月7日付)

矢内原千鶴子

理事長就任 (平成23年10月11日付)

井上 通敏

■ 学位記授与式

平成23年9月30日(金)午前11時30分より法人会議室
において、平成23年9月学位記授与式 (薬科学科1名)
が挙行されました。

■ 海外出張

スミス 朋子 准教授 (言語文化学グループ)

<出張期間:平成23年8月6日~8月24日>

個人研究及び科学研究費調査 (アメリカ)

友尾 幸司 准教授 (薬品物理化学研究室)

<出張期間:平成23年8月22日~8月30日>

第22回国際結晶学会に参加・発表 (スペイン)

松村 靖夫 教授、大喜多 守 講師

(病態分子薬理学研究室)

<出張期間:平成23年9月11日~9月16日>

第12回国際エンドセリン会議における出席、発表

(イギリス)

田中 一彦 教授、加藤 隆児 助教

(臨床薬剤学研究室)

<出張期間:平成23年10月1日~10月10日>

第12回国際TDM & CT会議における出席、発表

(ドイツ)

■ 慶弔

<訃報>

藤田 榮一元 学長 (平成23年7月24日逝去)

矢内原千鶴子 前理事長 (平成23年9月7日逝去)

■ 大学院薬学専攻博士課程(4年制)設置及び薬科学専攻課程変更について

設置届出

平成23年8月30日付の大学院薬学専攻博士課程(4年制)の設置届出及び薬科学専攻の課程変更届出が10月下旬に文部科学省にて受理されました。

開設予定 平成24年4月1日

設置の目的

【大学院薬学専攻博士課程(4年制)】(入学定員3名)

薬学部薬学科卒業生をはじめ多くの薬学出身者を中心に、医療・臨床薬学領域における広い視野と専門性

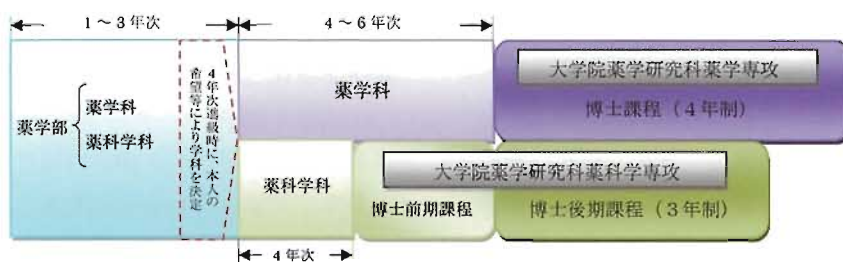
の高い研究能力の涵養を行い、高度な知識と技能をもって国民の健康維持増進、医薬品の副作用の予防、並びに疾病の予防と治療等に資する優れた人材を養成する。

【大学院薬科学専攻博士後期課程(3年制)】

(入学定員5名)

創薬研究並びにその技術開発に貢献する学問体系を確立し、それを発展・継承させる研究者、教育者となるべき人材を育成して、わが国の薬学領域における教育研究水準の更なる向上と発展に寄与する。

本学学部・大学院の関係図



※これに伴い、大学院薬学専攻博士後期課程(旧カリキュラム)は学生募集停止となります。

■ 報告

掛見正郎教授が平成23年度大阪府薬事関係等功労者知事表彰を受けました

掛見正郎教授(薬剤学研究室)が「薬と健康の週間」の行事の1つである平成23年度大阪府薬事関係等功労者知事表彰を受けました。10月27日(木)に開催された表彰式では、薬学研究の部を代表して表彰状が授与されました。

掛見正郎教授が平成23年度教育賞を受賞しました

掛見正郎教授(薬剤学研究室)が薬学教育へ貢献し、薬学教育の進歩・発展に功績のあった者に授与される社団法人日本私立薬科大学協会の平成23年度教育賞を受賞しました。

■ 地域連携

高槻市「健康たかつき21」第8回シンポジウムに出展しました

平成23年10月1日(土)に高槻現代劇場中ホールにおいて開催された高槻市主催「健康たかつき21」第8回シンポジウムの活動展示会に今年も出展しました。当日は、気象予報士・正木明さんによる健康づくりに関する講演会も開催され、盛況でした。

高槻市「食育フェア2011」に出展しました

平成23年11月13日(日)に高槻市立第一中学校において開催された高槻市主催「食育フェア2011」の取組み紹介ブースに今年も出展しました。食育を広く市民に啓発する事業として開催された同フェアは、食にまつわるクイズや給食の試食、隣接会場での農林業祭など盛りだくさんの企画で、当日は2,300名を超える参加者があり、大変賑わいました。



食育フェアへ出展

附属薬局健康講座を開催しました

学校法人大阪薬科大学附属薬局では年3回の健康講座の開催が恒例となっています。平成23年10月1日(土)には「生活習慣病と骨粗鬆症」をテーマに大阪市

立大学大学院医学研究科・今西康雄講師をお迎えしました。今西先生のユニークでわかりやすいご講演は、参加された約 60 名の患者様を引きつける充実したものとなりました。

■ トリビアを募集します

現在、「大阪薬科大学紹介 DVD」の作製が進行中ですが、その中の企画の一つとして「大阪薬科大学トリビア」を計画しています。伝統ある大阪薬科大学であるからこそ、まつわるエピソードはきっと数知れず…。そこで、「大したことではないけれど、ちょっと面白い話」や「生活するうえでは必要ないけれど、ちょっと誰かに教えて“へえー”って言ってもらいたい話」等、大阪薬科大学にまつわるトリビアを募集したいと思います。例えば、「大阪薬科大学七不思議」、「やたらと左利きの人が多い」、「職員には AB 型の人が多い」、「埋蔵金伝説がある」、「このスポットから見る〇〇は

最高」等々、「これは使えるのでは？」というネタをお持ちの方は、nobel@gly.oups.ac.jp（総務課）へお寄せください。もちろん、松原時代の話でも結構です。

なお、お寄せいただいた原稿を採用させていただくにあたっては、編集段階でリライトすることもありますので、あらかじめご了承ください。

■ 大学オリジナルグッズのアイデアを募集します

本学では、大学オリジナルグッズの作製を検討しています。現在、「大阪薬科大学キューピー」を候補に挙げていますが、「こんなデザインの服を着たキューピーはどうだろう？」というアイデアをお持ちの方、また、キューピー以外にも「こんなオリジナルグッズがあったらいいな」というアイデアをお持ちの方は、ご意見を nobel@gly.oups.ac.jp（総務課）へお寄せください。

教 務 課

■ 学位授与

[博士(論文)]

論博第63号 博士(薬学) 出雲 貴幸

Lactobacillus pentosus S-PT84株の免疫調節作用に関する研究

(平成 23 年 7 月 6 日付)

[学士]

学士(薬科学) 男子 1 名 女子 0 名 合計 1 名
薬科学科 1 名 (男子 1 名、女子 0 名)

(平成 23 年 9 月 30 日付)

学 生 課

■ 第65回関西薬学生連盟バレーボール大会 女子チーム優勝 !!

バレーボール部 遠藤 有紀子

今年も 8 月の暑い中、薬連大会が行われました。薬連大会が他の大会と大きく異なるところは 4 日間連続で試合があるところです。9 チーム総当たりで、1 日 2 試合ですが、今年は接戦になるゲームが多く、とても大変でした。名古屋で開催され、皆でホテルに泊まっていた慣れない環境のため、1 日の疲れが次の日までに十分に取れるというわけではありませんでした。しかし、昨年準優勝で悔しい思いをしているし、3 年次の最後の大会ということもあり、皆弱音を吐かず 1 日 1 試合 1 試合本当に頑張りました。

大会 3 日目が終わり、最終日の 2 試合を残した時点で、1 位と 2 位の差が得失点差で 3 点という混戦状態で、私たちは 2 位でした。総当たりのため最終日に決勝戦があるわけではなく、対戦相手から 1 位のチームの方が有利かと思われました。私たちは自分たちが納得できる試合をして、しっかり楽しもうと決めました。もちろん優勝を諦めたわけではありません。この 1 年間 3 年次の先輩方と作ってきたこのチームで、一生懸命自分たちのバレーをすることで、結果は必ずついてくると信じていました。そして最終日、コートの中もベンチで応援してくれているメンバーもひとつになって、2 試合とも本当にいい試合ができました。閉会式の成績発表まで結果はわからず、優勝と聞いた時は本当に嬉しかったです。先輩方に笑顔で、最高の結果で引退してもらえたことが一番良かったです。



今年の薬連は、可能性は少なくとも最後まで諦めないことの大切さを改めて知った大会となりました。新チームは始まったばかりですが、この気持ちを忘れずにあと1年悔いの残らないように頑張りたいと思います。

■ 平成23年度父母懇談会

今年で5年目を迎えた父母懇談会は、10月15日(土)から11月26日(土)にかけて、学外4会場と大学の計5会場で開催され、合計で300名を超えるご父母が参加されました。

いずれの会場においても大学側から、教務関係、キャリアサポート関係、学生生活について説明があり、熱心な質疑応答がありました。ご父母から提示されたいくつかの要望については、大学に持ち帰り検討することになりました。また、アンケートに記載された意見には、本年も多数の好意的な評価をいただきました。懇談会を開催し、大学-学生、ご父母-学生、大学-ご父母の間の意思疎通を図り、理解を深めることの大切さを再確認しました。

昨年に続き、本学会場ではアドバイザー-教員等との

「関西薬連・全国薬連大会」結果（平成23年度）

◎関西薬連大会

部名	団体戦		個人戦
剣道部	男子	準優勝	準優勝：東川昇平③ 3位：青山周平①
	女子	—	
硬式庭球部	男子	15位	
	女子	準優勝	
硬式野球部		3位	
サッカー部		4位	
柔道部	男子	優勝	(有段の部) 準優勝：松井幹太① 3位：海野真美②
	女子	—	
ソフトテニス部	男子	5位	ダブルス/ベスト8：増田章秀②・野田拓誠② ダブルス/3位：長沢理恵③・西増春佳③
	女子	5位	
卓球部	男子	ベスト8	
	女子	予選敗退	
バドミントン部	男子	14位	シングルス/ベスト8：松本千裕③、河村佳奈② ダブルス/ベスト4：松本千裕③・河村佳奈②、ベスト8：前田沙梨③・松本麻里③
	女子	4位	
バレーボール部	男子	7位	
	女子	優勝	
陸上競技部	男子	予選敗退	
	女子	予選敗退	

◎全国薬連大会

部名	団体戦		個人戦
剣道部	男子	ベスト6	ベスト8：青山周平①
	女子	—	
ソフトテニス部	男子	5位	ダブルス/4位：長沢理恵③・西増春佳③
	女子	4位	
卓球部	男子	ベスト16	
	女子	—	
バスケットボール部	男子	ベスト12	
	女子	予選敗退	

注) ○内は学年

面談の機会を設けました。学生と三者で面談される方もあり、70件を超える面談が実施されました。

なお、アンケートの集計結果は、父母懇談会に協賛いただいております育友会を通じて報告いたします。

■ 人権講演会の開催（主催：人権委員会）

平成23年10月7日(金)第3限、D301講義室において、本年度の人権啓発教育として人権講演会を開催しました。

大学内で起こりうる人権侵害に対する認識を深めてもらうために、テーマを「アカデミック・ハラスメントについて」とし、御興久美子氏(奈良県立医科大学)に講演をお願いしました。講演では、大学における教師との関係におけるさまざまなハラスメントの具体的事例が紹介され、参加者の興味を引きつけていました。大学に



おいてハラスメントを受けた場合の的確な対応などが詳しく紹介され、聴講した学生にとっては、これから大学生活を送っていく上で、前もって準備しておくべき人権についての意識やハラスメントに対する認識を新たにすることができた講演会であったと思われます。

1年次生及び教職員を対象にしておりましたが、参加者はおよそ250名で、熱心に聴講していました。

奨学生状況

平成23年10月1日現在

1. 日本学生支援機構

区 分		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	大学院 (博士前期課程)	大学院 (博士後期課程)	合計
第一種	人 数	42	45	46	37	29	30	12	1	242
	月 額	30,000円*又は54,000円						50,000円* 又は 88,000円	80,000円* 又は 122,000円	
	自宅	30,000円*又は64,000円								
	自宅外									
第二種	人 数	78	112	93	93	51	49	1	0	477
	月 額 (薬学課程増額月額)	3万・5万・8万・10万・12万円から選択 (12万円を選択した場合は2万円の増額可)						5万・8万・10万・ 13万・15万円から選択		
合 計		120	157	139	130	80	79	13	1	719

*印の金額は、平成21年度採用者から選択可

2. 本学独自の奨学金制度

名 称	月額(円)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	大学院	合計	給付・貸与
大阪薬科大学一般奨学金	学 部 50,000 大学院 60,000	9	1	0	2	4	2	1	19	一部給付
大阪薬科大学育友会奨学金	40,000又は80,000	2	3	2	6	1	0	0	14	貸与
合 計		11	4	2	8	5	2	1	33	

3. その他の育英・奨学会（本学を通して推薦している奨学金）

名 称	月額(円)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	大学院	合計	給付・貸与
あしなが育英会	40,000	0	0	1	1	0	0	0	2	貸与
(財)小野奨学会	学 部 30,000 大学院 60,000	7	10	9	9	8	1	5	49	給付
(財)佐藤奨学会	25,000	0	0	0	1	1	0	—	2	給付
公益信託鈴木万平記念薬学奨学基金	50,000	0	0	1	0	0	0	—	1	給付
(財)大東育英会	15,000	0	0	0	0	1	0	—	1	給付
(財)山口県ひとづくり財団	52,000	0	0	1	0	0	0	—	1	貸与
合 計		7	10	12	11	10	1	5	56	

～健康管理支援室から～

- ★ 担架を設置しました。
 - C棟 1F エントランスホール AEDの横
 - D棟 3F エレベーター前
 - 学生クラブハウス 1F 正面出入口の横



★『11月8日』は **いい歯の日**

2011年8月に「**歯科口腔保健の促進に関する法律**」が成立、施行されました。(略称⇒**歯科口腔保健促進法**)
口腔の健康維持が、質の高い生活を営むのに大切です。

生涯にわたり、日常生活における歯科疾患の予防・早期発見/治療を促進することが目的です。



★生涯を通じて口腔の健康を維持するには

- ①よく噛むことを！ **噛ミング30** ⇒ 30回噛んで食べる (厚生労働省提唱)
- ②毎食後のブラッシングを！⇒デンタルフルスと歯間ブラシの利用
- ③規則正しい生活を！⇒体とこころの健康を、禁煙・糖尿病の管理
- ④定期的に歯科検診を！ **8020運動** ⇒ 80歳になっても自分の歯を20本以上保とう

★噛む効用の標語 (学校食事研究会)

卑弥呼の歯がいーぜ

<p>ひ ひまんよぼう 肥満予防 ゆっくりよく噛んで食べると満腹中枢が刺激されます。また、エネルギー代謝を活発にします。</p>	<p>は はびょうきよぼう 歯の病気予防 よく噛むことにより、唾液がたくさん出て歯周病やむし歯の原因菌を洗い流します。</p>
<p>み みかく 味覚ハッキリ よく噛むと味わいがふかくなります。たとえば、ごはんはよく噛むと唾液と混じり甘く感じられます。</p>	<p>が よぼう ガン予防 唾液中の酵素が食物中の発ガン性を消します。よく噛むと唾液がたくさん出ます。</p>
<p>こ こことば 言葉もハッキリ よく噛んで食べると舌がよく動きます。舌がスムーズに動くと言葉がハッキリします。</p>	<p>い いちよう かいちよう 胃腸が快調 よく噛むことにより、食べ物が細かく碎かれると同時に唾液がたくさん出るので消化を助けます。</p>
<p>の のう ほったつ ろうかよぼう 脳の発達・老化予防 よく噛むと脳に多くの血が流れ、脳が活性化します。</p>	<p>ぜ ぜんりよくとうきゅう おうえん 全力投球を応援 力を出るときなどに歯をくいしほることができます。</p>

現代人に比べて、私の時代の人は噛む回数が何倍も多かった。私もしっかりとよく噛んで食べていました。

- ひ：肥満の防止
- み：味覚が発達
- こ：言葉を正しく発音
- の：脳の発達
- は：歯の病気予防
- が：ガンの予防
- い：胃腸が快調
- ぜ：全力投球



(イラスト～愛知県農林水産部食育推進課食育ネットより)

★永久歯の数は 28本 + 4本 (親知らず) = 32本です。

以前に、「芸能人は白い歯が命」というキャッチフレーズのCMがありました。

健康な歯ぐきがあってこそ口元がきれいになるのです。

歯と口の健康保持に努めてください。

参考資料-8020 推進財団

経 理 課

平成24年度納付金について

<薬学部納付金>

◎ 薬 学 科 (6 年 制)

区分	初年度			2年次以降		
	前期	後期	年額計	前期	後期	年額計
入学金	400,000円	—	400,000円	—	—	—
学費	授業料	600,000円	600,000円	600,000円	600,000円	1,200,000円
	施設・設備費	300,000円	300,000円	600,000円	300,000円	600,000円
合計	1,300,000円	900,000円	2,200,000円	900,000円	900,000円	1,800,000円

※5年次以降に予定されている学外での病院・薬局実務実習に必要な費用は大学が負担します。

※学友会及び育友会から徴収を委託されている納付金として、学友会入会金1,000円(初年度のみ)、学友会費5,000円(年額)及び育友会費18,000円(年額)があります。

なお、学友会とは本学学生で構成される自治団体、育友会とは本学学生の父母若しくはこれに準ずる者で構成される団体です。

◎ 薬 科 学 科 (4 年 制)

区分	初年度			2・3年次			4年次		
	前期	後期	年額計	前期	後期	年額計	前期	後期	年額計
入学金	400,000円	—	400,000円	—	—	—	—	—	—
学費	授業料	600,000円	600,000円	600,000円	600,000円	1,200,000円	500,000円	500,000円	1,000,000円
	施設・設備費	300,000円	300,000円	600,000円	300,000円	300,000円	600,000円	250,000円	250,000円
合計	1,300,000円	900,000円	2,200,000円	900,000円	900,000円	1,800,000円	750,000円	750,000円	1,500,000円

※学友会及び育友会から徴収を委託されている納付金として、学友会入会金1,000円(初年度のみ)、学友会費5,000円(年額)及び育友会費18,000円(年額)があります。

なお、学友会とは本学学生で構成される自治団体、育友会とは本学学生の父母若しくはこれに準ずる者で構成される団体です。

<大学院薬学研究科納付金>

◎薬学専攻博士課程(4年制)、薬科学専攻博士前期課程(2年制)・博士後期課程(3年制) (共通)

※薬学専攻博士課程(4年制)・薬科学専攻博士後期課程(3年制)は、平成24年4月開設予定

区分	前 期	後 期	年 額 計
入学金(初年度) 本学卒業生は免除	300,000円	—	300,000円
授業料	300,000円	300,000円	600,000円

※育友会から徴収を委託されている納付金として、育友会費18,000円(年額)があります。

なお、育友会とは本学学生の父母若しくはこれに準ずる者で構成される団体です。

学費納付書の送付について

学費納付書は、毎年、前期分は4月初旬に、後期分は10月初旬にご自宅へ郵送しています。

納付期日は、次のとおりです。

前期分学費	4月16日から 4月30日
後期分学費	10月16日から10月30日

なお、納付金を滞納し、督促を受けても所定期日までに納付しない者は除籍となりますので、ご注意ください(学部：大阪薬科大学学則第17条、大学院：大阪薬科大学大学院学則第28条参照)。

納付が遅れる特別な事情がある方は、大学(学生課)に事前にご連絡ください。

キャリアサポート課

インターンシップの意義

皆さんはインターンシップを知っていますか。

最近自分のキャリアを就職を考える中で益々重要になってきているプログラムです。

今回はそのインターンシップに関して、しっかりとその目的を考えて複数の業界にチャレンジして自分の視野をまた将来の可能性を増やした2人の5年次生に、インターンシップの体験をレポートしてもらいました。

ぜひ2人の意図を理解して自分のキャリアプランニングに役立ててください。

企業（臨床開発）と公務員の

インターンシップに参加して 河野 有貴

私は企業（臨床開発）と公務員のインターンシップの2ヶ所に参加させて頂きました。

皆さん、自分の将来像は抱けていますか。私は臨床開発職か公務員の業務に将来、携わりたいと考えていました。しかし、それらに対して漠然とした内容しかありませんでした。そこで、インターンシップに参加し知識を深めようと考えました。

＜CRO＞患者様の命を助けることができる新薬を世に送り出せる臨床開発の業務に携わりたいという気持ちを抱いていました。そこで、実際に臨床開発の業務内容を見させて頂き、直に話しを聞き参考にさせて頂こうと考え、CRO（医薬品開発受託機関）のインターンシップに参加しました。CROでは治療に関する業務内容の説明に始まり、それ以外に実際に治験を実施する医療機関やクライアントになる製薬会社に訪問させて頂きました。

＜公務員＞三重県では、中小企業をバックアップ、また治験をスムーズに行えるように病院が連携させることを可能にさせる独自のメディカルバレープロジェクトがあり、それに興味を抱いていたため、三重県の公務員のインターンシップに参加しました。公務員のインターンシップでは、保健所、工場研究所、保健環境研究所、県庁を訪問させて頂きました。

2ヶ所のインターンシップに参加して、具体的な内容を教えて頂くことや現場の生の声を聞くことで職種に対して今までの自分の知識は何だったんだろうと思うぐらい知識を増やすことができました。また、業務の全貌をみることができ、開発業務に携わりたい、また公務員になってプロジェクトを進めていきたいという気持ちになりました。インターンシップの参加は他の効果もあり、同じ志を持っている仲間に出会えることにより、就活に対する意識を上げることができまし

た。自分に足りないものは何で、これから自分が行っていかなければいけないことを教えてくれた本当に良い機会でした。

調剤薬局と企業（MR）の

インターンシップに参加して 中 綾美

私は4年次生の夏に高知のブルークロス調剤薬局、5年次生の夏に塩野義製薬のインターンシップに参加しました。

4年次生の時点で、私は病院志望であり、専門薬剤師を目指そうと考えていました。病院、調剤薬局、企業の中でも調剤薬局は自分にとって最も就職先の候補として考えていなかったもので、本当に選択肢として消してしまっているのか？と考え、インターンシップに参加しました。ブルークロス調剤薬局では、5日間に亘って2軒の調剤薬局で体験させて頂きました。実習ではないので調剤や服薬指導はできず全て見学のみでしたが、開店からほぼ閉店までの薬局の1日の流れを体感することができました。在宅チームの患者訪問や勉強会にも参加させて頂き、調剤薬局で働く薬剤師の1週間に密着させて頂くことができました。インターンシップ後も、社長が大学に来られるたびに製薬業界についての様々な興味深いお話を聞かせて頂き、そのたびに刺激を受けています。

5年次生の時点では、MR志望に変わり、実際に就職したいと考える企業のインターンシップに参加しました。塩野義製薬のインターンシップは3日間に亘りました。1日目は製薬業界や塩野義製薬についてのレクチャーとインターンシップに参加した計10名の学生の間で「MRについてどのように考えているか」についてのディスカッションを行いました。2日目は1日中MRに同行しました。3日目は工場見学と「MR同行後の印象の変化」についてディスカッションを行いました。3日間を通して、塩野義製薬の雰囲気を感じ、MRを目指す上での課題も発見することができました。

調剤薬局と企業の両方のインターンシップに参加できたことは、自分にとっての強みになったと思います。病院も含めて両者の関係性は切れるものではなく、それぞれの業界を体験し、それぞれの立場での考え方に触れたことは、将来、製薬業界で働く上で必ず自分にとって有利になると確信しています。その点で、同じ業種に偏って見るよりも同じ業界のMRと薬局薬剤師という異なる業種を見られたことは、広い視野で製薬業界を見ることができ、自分のいろいろな可能性を感じられたと思います。

入 試 課

オープンキャンパス 2011

開 催 日：平成 23 年 4 月 2 日(土)

参加者数：120 名

プログラム：学部学科説明

就職状況・入試概要

個別相談



受付風景

開 催 日：平成 23 年 7 月 23 日(土)

8 月 4 日(木)

8 月 20 日(土)

参加者数：1,500 名

プログラム：入試説明・就職状況

キャンパスツアー

個別相談

体験イベント（土曜開催）

- ・ 薬剤師の仕事を体験してみよう
- ・ 色々な形のくすりを見てみよう
- ・ バイオサイエンス入門
- ・ ニンジン、トマトジュースからの
βカロテンの抽出・分離
- ・ 発泡性入浴剤を作ろう

オープンラボ（木曜開催）



体験イベント

開 催 日：平成 23 年 10 月 1 日(土)

参加者数：200 名

プログラム：入試説明・就職状況

個別相談

特別講師による推薦入試直前！対策講座



キャンパスツアー

開 催 日：平成 24 年 3 月 31 日(土)

プログラム等の詳細は未定です。



オープンラボ

図 書 課

図書館ホームページの学外公開について

平成17年に図書館ホームページを立ち上げて以来、本ホームページは「学内サービス」として運用してきましたが、近隣私立薬系大学図書館が公開していることや、卒業生や在籍学生から「蔵書検索」の学外公開を望む声があることを受けて、平成23年7月からホームページの一部を学外公開することとしました。

ホームページ9項目のうち、学外公開の対象は「蔵書検索：(本学所蔵の図書検索)」「学術雑誌目録：(本学所蔵の学術雑誌検索)」「利用案内：(図書館利用のための手引き)」、学内専用の対象は「電子ジャーナル」「SciFinder Scholar」「データベース」「お知らせ」「文献取り寄せ」「購入希望図書」としました。

また、新たに直近2ヶ月分の開館日程もお知らせすることとしました。

2011年12月							2012年1月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2 3	1	2	3	4	5	6	7
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28
25	26	27	28	29	30	31	29	30	31				

- 9:00~20:00 開館
- 9:00~17:00 開館
- 10:00~16:30 開館
- 10:00~18:00 開館
- 休館日

最近では、ホームページで蔵書検索の上、実物を閲覧するために図書館に来られる方も見かけるようになってきました。

この図書館ホームページの学外公開が、今後とも利用者の研究や教育などに少しでも寄与することができればと願っています。

図書館・資料展示室への寄贈資料一覧

(敬称略)

寄贈日	寄贈者氏名	寄贈資料名	所蔵場所
平成23年9月5日	近藤 成寿	近藤美恵(帝国女子薬学専門学校卒業) 「売薬発売免許申請書」 「売薬免許証」	資料展示室
平成23年8月8日	平田 純生	「透析患者への投薬ガイドブック」他 4点	図書館
平成23年7月15日	福田 尚子	市井淑子(道修女子薬学専門学校卒業) 「学期試験成績表」	資料展示室
平成22年12月20日	睦門 令伊加	「国譯本草綱目」他 多数	図書館
平成22年7月	有田 浩和	「日本医事大年表」他 多数	資料展示室
平成22年5月19日	平野 重子	「鬮引」(実験用器具)	資料展示室
平成22年5月1日	(財)武田科学振興財団	「杏雨書屋所蔵書簡集」他 16点	資料展示室
平成21年5月6日	古川 悦子	「仁和寺東洋医学叢書 全8巻」他 4点	図書館
平成20年5月25日	油野 奈那子	「5キログラム上皿天秤」他 2点	資料展示室
平成17年6月27日	アルフレッサ・ファーマ(株)	「Analytical Biochemistry」 vol.14~vol.159(1966~1986)	図書館
		「Biochemistry」 vol.19~vol.20(1980~1981)	
		「Journal of Toxicological Sciences」 vol.1~vol.22(1976~1997)	
		「Lancet」 vol.1~vol.354(1982~1999)	
平成16年12月22日	太田 長世	「中国本草図録 全11巻」他 多数	図書館

平成16年度以降の寄贈資料(学外者関係)を一覧表にまとめました。

各ご寄贈に対し厚く御礼申し上げます。

寄贈された資料は、図書館・資料展示室の所蔵資料として大切に保管し、寄贈の意図に添いたいと思います。

主な新着図書・DVDの紹介 (平成 23 年 11 月)

区分	タイトル	著者
専門図書	CBT こあがりシリーズ (1、2)	医学評論社
//	やさしい薬理のメカニズムー薬のはたらきを知るー	中原 保裕
//	よくわかる POS 薬歴の基本と書き方	井手口 直子
//	抗菌薬はこう使い！ ーガイドラインに沿ったコツのコツ：レジデントのための薬物療法ー	前崎 繁文
//	放射能汚染ほんとうの影響を考える ーフクシマとチェルノブイリから何を学ぶかー	浦島 充佳
//	医師のレジメン選択の根拠がわかる症例で学ぶがん薬物療法	山内 照夫
//	薬学生・薬剤師のための調剤と服薬指導ガイド	中村 房子
//	使えるデータベース・ウェブツールー日本初のデータベース戦略から、ゲノム・疾患情報の有効活用までー	有田 正規
//	疾患そして薬物治療ー悪性新生物と戦うー	鈴木 孝
//	薬品分析の化学と科学ー方法論序説ー	荒井 健介
//	薬学生・薬剤師のためのヒューマニズム	有田 悦子
//	分子生物学超図解ノートー重要ワードで一気にわかるー	田村 隆明
//	タンパク質実験ノート (上)	岡田 雅人
//	細胞内のリノベーション機構タンパク質分解系による生体制御	村田 茂穂
//	化学熱力学ー分子の立場からの理解ー	ピメンテル
教養図書	マスカレード・ホテル	東野 圭吾
//	悲しみの効用	五木 寛之
//	平成猿蟹合戦図	吉田 修一
//	凜と咲くーなでしこジャパン 30 年目の歓喜と挑戦ー	日々野 真理
//	ガンディー魂の言葉	マハトマ・ガンディー
//	詩集 ありがとう	サトウハチロー
//	はじめてでも 600 点取れる！たった 4 時間で TOEIC テスト完全攻略	中尾 享子
//	希望は絶望のと真ん中に	むの たけじ
//	一生働く覚悟を決めた女性たちへー仕事を楽しむ技術ー	古川 裕倫
//	新・墮落論ー我欲と天罰ー	石原 慎太郎
//	野球へのラブレター	長島 茂雄
//	民間療法のウソとホント	蒲谷 茂
DVD	ナルニア国物語 第 3 章ーアスラン王と魔法の島ー	
//	借りぐらしのアリエッティ	
//	ハナミズキー君と好きな人が百年続きますようにー	

薬 用 植 物 の 紹 介

ヤブツバキ *Camellia japonica*

薬用植物園長 田中 麗子

やぶつばき（薔椿）は、ツバキ科ツバキ属の常緑高木で、学名は *Camellia japonica*。英名は *Camellia*。ツバキのうち、山地や海岸に自生する野生のもの。ツバキの原種とされる。これをもとに園芸品種の多くが作られた。ツバキは品種が多い花で、日本産だけでも2,000種以上あると言われる。*Camellia* は、17世紀のチェコスロバキアの宣教師 George Joseph Kamell「カメル」さんの名にちなむ。椿はカメルさんが18世紀に東洋からヨーロッパにもたらしたことで広まった。我が国の本州から四国・九州および東アジアに分布する。主に海岸近くに生え、高さは10~15m、春に赤やピンク色の5弁花を咲かせる。花卉は平開しないのが特徴。薔椿の種子から採れる「椿油」は、高級食用油、整髪料として使われるほか、古くは灯りなどの燃料油としてもよく使われた。高価なため、同じくツバキ属の油茶などから搾った油もカメリア油の名で輸入されている。幹は建材に利用され、陶器や漆器などの工芸品のデザインにも用いられる。また、椿の灰は紫染めの媒染に使われる。伊豆大島の椿は昔から有名で、ここは太平洋上で気温が高いため1月中旬から見頃（椿祭り）。椿の花言葉は「贅沢、おしゃれ、至上の愛らしさ、謙遜の美德」。

別名で「やまつばき(山椿)」とも呼ぶ。本種から分化したものに、東北地方から北陸地方の多雪地帯に生える「ゆきつばき(雪椿)」がある。日当たりの良い斜面に多い。薔椿の開花時期は、1/20~5/10頃。日本特産。一般に「椿」といったらこの薔椿を指すようだ。一重や八重がある。園芸品種多数。「佐助」などいろいろ種類がある。「春山茶花(はるさざんか)」は、名前は「山茶花」だが、姿形は「椿」に近い。花の開花時期も春先までと長い。しましま模様の「鎌倉紋り(かまくらしぼり)」という品種がよく知られるらしい。

椿(つばき)いろいろ

- 薔 椿 もっともよく見かける椿。花は大きくやや筒型。花ごと散る。花びらは厚みがある。
- 雪 椿 日本海側の山地などに生える。全体的に薔椿によく似ている。花びらは平開し、花ごと散る。葉っぱのこまかい葉脈が目立つ。
- 春山茶花 花、葉とも薔椿そっくり。花ごと散る。
- 山茶花 花びらは平開し、1枚ずつ散る。葉は薔椿よりは小さい。
- 寒 椿 花は小さく八重が多い。1枚ずつ散る。葉は小さい。
- 夏 椿 咲く時期は夏。时期的に区別できる。

海岸地方の薔椿の林の中でこの木を見つけると、華やかで嬉しい気分になる。暗い林の下に散らばって花が落ちているのもすてきだ。清楚でそれでいて華やか。京都の龍安寺には室町時代のツバキが残っている。他家受粉で結実するために変種が生じやすいことから、古くから品種改良が行われてきた。江戸時代には江戸の将軍や肥後、加賀などの大名、京都の公家などが園



芸を好んだことから、庶民の間でも大いに流行し、たくさん品種が作られた。茶道でも大変珍重されており、冬場の炉の季節は茶席が椿一色となることから「茶花の女王」の異名を持つ。また西洋に伝来すると、冬にでも常緑で日陰でも花を咲かせる性質が好まれ、大変な人気となり、西洋の美意識に基づいた豪華な花をつける品種が作られた。しかも葉のエキスが止血薬になる。花粉から良い香りがすることもある。ツバキが万葉の昔から愛され続くのは花色と花形の多彩・多用さ、葉のしっとり感、樹姿のまとまりの良さ、秋から春まで咲き続ける花期の長さであろう。宮崎県延岡市城山では約3,300本の薔ツバキが自生、日本三大薔ツバキ自生地とされている。城山全山には野生の薔椿が多彩に変化して自生している。この薔ツバキ群は全国的に見ても非常に価値の高いもので、限定された範囲内では千葉県大原町、島根県松江市と、この城山公園の三箇所しかない。花色は9色、花形は8種以上もあり、一つ一つが違う色彩を持っている。また城山に自生する樹木は67種、草本13種が数えられる。

「あしひきの 山つばき咲く八峯(やつを)越え
鹿(しし)待つ君の いはひ妻かも」 (万葉集)

「古事記」では「都婆岐(つばき)」。「日本書紀」には「海石榴(つばき)」の字で表現されている。現在の奈良県桜井市金屋に、昔(奈良時代等)「海石榴市(つばいち)」という市場があり交通の要所ということもあり賑わった。「椿」の字は「万葉集」で初めて登場する。「つばき」の読み方の由来には諸説ある。1) 「光沢がある」意の古語「艶葉木(つやはき)」から。2) 葉に厚みがある意味の「厚葉木」から。3) 強い葉っぱの木の意味の「強葉木」から。4) 落ちた花が、刀の鏢(つば)に似ており、「鏢木(つばき)」の名から。5) 朝鮮名の「冬柏(つくばく)」の名から。現在はふつつ「椿」の字で知られるが、この「椿」の字は日本で作られた国字(春に花咲く)であり、中国では「椿」は、梅檀(せんたん)科の高木である「ちゃんちん」という木のことを指し漢名では日本の「椿」は「山茶花」と記す(日本では「山茶花」は「さざんか」で定着済。昔からの取り違え)。椿の花が落下する瞬間は直径10cmぐらいの一花全体が、ドサッと一気に落ちる。古代の日本人は、冬も緑色の椿の葉に霊力を感じたらしい。